



Secure Workstation for OpenLab CDS
ChemStation Edition

インストールガイド

注意

マニュアル番号

M8313-96004 リビジョンC
エディション 04/2019

Printed in Germany

著作権

© Agilent Technologies, Inc. 2014-2019

本マニュアルの内容は米国著作権法および国際著作権法によって保護されており、Agilent Technologies, Inc. の書面による事前の許可なく、本書の一部または全部を複製することはいかなる形態や方法（電子媒体への保存やデータの抽出または他国語への翻訳など）によっても禁止されています。

Agilent Technologies
Hewlett-Packard-Strasse 8
76337 Waldbronn

ソフトウェアリビジョン

このガイドは、Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition リビジョン C.01.10 に対応しています。

保証

このマニュアルの内容は「現状有姿」提供されるものであり、将来の改訂版で予告なく変更されることがあります。Agilent は、法律上許容される最大限の範囲で、このマニュアルおよびこのマニュアルに含まれるいかなる情報に関しても、明示黙示を問わず、商品性の保証や特定目的適合性の保証を含むいかなる保証も行いません。Agilent は、このマニュアルまたはこのマニュアルに記載されている情報の提供、使用または実行に関連して生じた過誤、付随的損害あるいは間接的損害に対する責任は一切負いません。Agilent とお客様の間に書面による別の契約があり、このマニュアルの内容に対する保証条項がここに記載されている条件と矛盾する場合は、別に合意された契約の保証条項が適用されます。

技術ライセンス

本書で扱っているハードウェアおよびソフトウェアは、ライセンスに基づき提供されており、それらのライセンス条項に従う場合のみ使用または複製することができます。

権利の制限

米国政府の制限付き権利について：連邦政府に付与されるソフトウェアおよび技術データに係る権利は、エンドユーザーのお客様に通例提供されている権利に限定されています。Agilent は、ソフトウェアおよび技術データに係る通例の本商用ライセンスを、FAR 12.211 (Technical Data) および 12.212 (Computer Software)、並びに、国防総省に対しては、DFARS 252.227-7015 (Technical Data

-Commercial Items) および DFARS 227.7202-3 (Rights in Commercial Computer Software or Computer Software Documentation) の規定に従い提供します。

安全にご使用いただくために

注意

注意は、取り扱い上、危険があることを示します。正しく実行しなかったり、指示を遵守しないと、製品の破損や重要なデータの損失に至るおそれのある操作手順や行為に対する注意を促すマークです。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、**注意**を無視して先に進んではなりません。

警告

警告は、取り扱い上、危険があることを示します。正しく実行しなかったり、指示を遵守しないと、人身への傷害または死亡に至るおそれのある操作手順や行為に対する注意を促すマークです。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、**警告**を無視して先に進んではなりません。

本書の内容

本インストールガイドでは、Agilent Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition のインストールおよび設定について説明しています。

表1 このドキュメントで使用される用語と略語

用語	説明
AIC	Agilent 機器コントローラ
CDS	クロマトデータシステム
ChemStation	OpenLab CDS ChemStation Edition
コントロールパネル	OpenLab Control Panel
Microsoft コントロールパネル	Microsoft Windows オペレーティングシステムの一部
Secure Workstation	Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition

1 PC の準備

この章では、Agilent が提供する以外の PC の設定方法を説明します。Agilent 提供の PC バンドルには、サポートされている Windows オペレーティングシステムがプリインストールされ、パフォーマンスが最適になるように設定されています。Agilent 以外の PC の場合、パフォーマンスを最適化するためにマニュアルで設定変更を行う必要があります。

2 ソフトウェアのインストール

ソフトウェアは、OpenLab CDS ChemStation Edition インストーラで自動的にインストールされます。このツールにより、必要なコンポーネントがすべてインストールされます。

3 インストール後のタスク

この章では、インストール終了後に行うタスクについて説明します。

4 オプションの手順

この章では、追加ドライバーとソフトウェアウィザードに関する情報、Software Verification Tool に関する情報、およびその他の便利な手順に関する情報を提供します。

5 セキュアファイル I/O

この章では、セキュアファイル I/O を用いて ChemStation フォルダを保護する方法を説明します。

6 Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition のライセンス

この章では、Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition のライセンスについて説明します。

7 Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition の設定

この章では、Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition のコンフィグレーションについて説明します。

8 Secure Workstation のアップグレード

この章では、Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition のアップグレードについて説明します。

9 ソフトウェアのアンインストール

この章では、OpenLab のアンインストールウィザードを使用したアンインストールについての情報が書かれています。

10 トラブルシューティング

この章では、トラブルシューティングのヒントをいくつか提供しています。

目次

- 1 PCの準備 7
 - Windowsのインストールと更新 8
 - サイトプレパレーションツールの実行 11
 - サードパーティツールのインストールと設定 13
 - プリンタの設定 17
 - ChemStationのインストールを開始する前に 19
 - オペレーティングシステムの設定 22
- 2 ソフトウェアのインストール 34
 - インストールの準備 35
 - OpenLab CDS インストールウィザードの実行 36
- 3 インストール後のタスク 40
 - ソフトウェアインストール後のソフトウェア ベリフィケーションの実行 41
 - ChemMainのファイアウォール設定 42
 - ウイルス対策プログラムの設定 43
- 4 オプションの手順 45
 - 追加ソフトウェアとドライバーのインストール 46
 - 指定したフォルダーにインストールファイルをコピーしてインストールする 47
 - パブリックフォルダーへのショートカットの追加 48
- 5 セキュアファイル I/O 49
 - セキュアファイル I/O について 50
 - Windowsでのセキュアファイル I/Oの準備 51
 - ChemStationでセキュアファイル I/Oを有効にする 52
 - ChemStationユーザーの権限の確認 54

セキュアファイル I/O 操作時の重要事項	55
制限事項	56
6 Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition のライセンス	57
OpenLab ライセンスについて	58
ソフトウェアライセンスの取得	60
7 Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition の設定	65
初回ログイン	66
コントロールパネルへの ライセンスファイルの追加	67
ユーザーの追加	68
ロールへのユーザーの追加	69
8 Secure Workstation のアップグレード	70
アップグレードの計画	71
クラシック機器ドライバーの RC.NET への更新	73
アップグレードの準備	76
ライセンスアップグレード	78
Secure Workstation のアップグレード	81
9 ソフトウェアのアンインストール	83
アンインストールについて	84
OpenLab CDS アンインストールウィザードの実行	85
10 トラブルシューティング	86
ChemStation C.01.08 以降へのアップグレード後に クラシックドライバーを使用した機器の再コン フィグレーション	87
11 付録	90
PC 名の変更	91
営業およびサポートのお問い合わせ先	92

1

PC の準備

Windows のインストールと更新	8
サイトプレパレーションツールの実行	11
サードパーティツールのインストールと設定	13
Adobe Acrobat Reader のインストールと設定	13
Keysight IO Libraries Suite のインストール	15
.NET Framework のインストール	15
プリンタの設定	17
ネットワークプリンタをローカルプリンタとして追加	18
ChemStation のインストールを開始する前に	19
オペレーティングシステムの設定	22
PC コンフィグレーションチェッカー	22
マニュアルコンフィグレーション手順	23
LC/MS システムと CE/MS システムのセキュリティ設定の編集	32

この章では、Agilent が提供する以外の PC の設定方法を説明します。Agilent 提供の PC バンドルには、サポートされている Windows オペレーティングシステムがプリインストールされ、パフォーマンスが最適になるように設定されています。Agilent 以外の PC の場合、パフォーマンスを最適化するためにマニュアルで設定変更を行う必要があります。

Windows のインストールと更新

- 1 Microsoft インストールメディアまたは社内の IT 部門から提供された正規の PC イメージメディアから Windows オペレーティングシステムをインストールしてください。セットアップ中に、コンピュータ名と管理者のパスワードの指定とネットワークの設定を行います。システムを既存のドメインに参加させることも、ワークグループモードに設定することもできます。
- 2 Windows 10 Pro ユーザーの場合、社内の IT 部門のガイドラインに従って、最新の Windows 10 エディションに更新してください。
- 3 システムへのウィルス感染を防ぐために、ウィルス対策プログラムをインストールします。『OpenLab CDS ChemStation Edition 要件ガイド』(CDS_CS_HW-SW-Requirements.pdf) の「ファイアウォールの設定」に記載されたファイアウォールポートを必ず開いてください。

注記

ウィルス対策プログラムを実行すると、コンピューターの動作とパフォーマンスが影響を受けることがあります。ウィルススキャナによっては、OpenLab CDS と併用すると問題が生じる可能性があります。Symantec Endpoint Protection 14.0 MP2 および Microsoft Security Essentials はテスト済みです。

- 4 Microsoft コントロールパネルで **[システム] > [Windows ライセンス認証]** の **[プロダクトキーの変更]** をクリックします。有効な値を入力して Windows をライセンス認証します。
- 5 **[Windows Update]** の **[更新プログラムの確認]** をクリックして更新プログラムを確認し、重要なセキュリティパッチをすべて適用します。ChemStation をインストールする前にすべての Windows 更新プログラムが実行されていることを確認してください（更新設定は御社の IT 部門で一元的に設定できます）。

注記

この設定は、データ測定中にコンピューターが再起動し、データが失われるのを防ぐために必要です。

- 6 Windows 更新プログラムを無効にするか延期します（更新設定は御社の IT 部門で一元的に設定できます）。

- Windows 7 :
 - a Microsoft コントロールパネルで、 **【Windows Update】** を選択します。
 - b **【設定の変更】** を選択します。
 - c **【重要な更新プログラム】** セクションで **【更新プログラムを確認しない】** を選択します。他のオプションの選択をすべて解除します。
 - d 更新後にコンピュータを再起動します。
 - Windows 10 :
 - a **【設定】** > **【更新とセキュリティ】** で **【詳細オプション】** を選択します。
 - b 更新プログラムを延期する日数を入力します。
- 7 Windows 10 および Windows 7 のみ：リモート設定を行うには：Microsoft コントロールパネルで、 **【システム】** > **【リモート設定】** を選択します。 **【リモート】** タブ：
- **【リモートアシスタンス】** セクションの **【このコンピューターへのリモートアシスタンス接続を許可する】** チェックボックスをオフにします。
 - **【リモートデスクトップ】** セクションで、 **【このコンピューターへの接続を許可しない】** を選択します。
- 8 Microsoft コントロールパネルの **【日付と時刻】** で：地域のタイムゾーンを選択します。
- 9 Microsoft コントロールパネルの **【地域】** (Windows 10 および Windows 7 の場合は **【地域と言語】**) :
- a 地域のフォーマットオプションは、ドロップダウンリストから **【日本語 (日本)】** に設定してください。
 - b **【英語 (米国)】** 以外の地域の形式を使用している場合は、次の設定が必須です。この設定は、 **【追加の設定...】** ボタンをクリックすることで定義できます。
 - 小数点の記号 = . (ピリオド)
 - 桁区切り記号 = , (コンマ)
 - 区切り記号 = , (コンマ)

10 Microsoft コントロールパネルの **【管理】** タブの **【地域】**（Windows 10 および Windows 7 の場合は **【地域と言語】**）：

- a **【Unicode 対応でないプログラムの言語】** セクションで、**【システムロケールの変更...】** をクリックします。
- b ドロップダウンリストから **【日本語（日本）】** を選択します。

注記

英語、日本語、または中国語のオペレーティングシステムを使用している場合は、システムロケールを変更しないでください。

サイトプレパレーションツールの実行

- 1 USB メディアまたは指定したフォルダーからインストーラを実行します。【プラン】画面から、【システムコンフィグレーションチェッカー】を選択します。
- 2 【サイトプレパレーションツール】が開きます。ドロップダウンリストから以下を選択します。【Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition】。
- 3 【OK】を選択します。
- 4 1 ページ目の【Contact Information - System details】の空欄を入力します。
 - 【System Location】フィールド
 - 【System Information】フィールド
 - 【Configuration】フィールド
- 5 システムの詳細を確認して、必要事項を入力します。システムは指定されたパスに従います。
- 6 画面の上部左隅の緑のチェックマークアイコンを選択して、システムチェックを開始します。Summary レポートに、各チェックカテゴリの結果が表示されます。結果は、【Pass】、【Warning】、【Critical Warning】または【Fail】と表記されます。

結果が【Fail】となった場合、修正してからインストールを行ってください。【Critical Warning】や【Warning】の場合も、続行する前にできる限り解決することをお勧めします。

注記

ファイアウォールがセキュリティソフトウェアに制御されている場合、セキュリティ上の制限により、サイトプレパレーションツールがファイアウォールの設定値を読み取ることができず、ファイアウォールの設定に関して「Fail」ステータスが表示されてしまいます。

この場合は、ファイアウォールが無効になっていることを確認し、サイトプレパレーションツールのレポートに手作業でステータスを入力してください。

- 7 レポートの詳細を表示するには、次のリンクを選択してください：
【System Hardware Details】、【Operating System and Software Details】、または【Manual Verification Required】。

PCの準備

サイトプレパレーションツールの実行

- 8 レポートを保存するには、画面の上部左にある **【レポートの保存】** アイコンを選択します。
- 9 Agilent ソフトウェアシステムをインストールする PC を評価および検証するには、保存したレポートを電子メールで Agilent またはサービス関係者に送信してください。

サードパーティツールのインストールと設定

一定のサードパーティツールを PC にインストールおよび設定する必要があります。**OpenLab CDS ChemStation Edition インストーラ**を実行する場合は、これらのツールの一部を **【インストール】** 画面から直接インストールできます。

Adobe Acrobat Reader のインストールと設定

注記

古いバージョンの Acrobat Reader（2016 以前、XI 以前）または DC Continuousトラックバージョンの Reader がシステムにインストールされている場合は、最初にアンインストールする必要があります。アンインストールせずに以下のインストールをすると Acrobat Reader のバージョンが定期的に自動更新されるようになります。

Adobe Acrobat Reader 2017 をインストールするには：

- 1 **【サードパーティツール】** の **【Adobe PDF Reader】** を選択します。
- 2 Adobe Reader のセットアップ画面が表示されます。 **【インストール】** をクリックして続行します。
- 3 Adobe Reader が正常にインストールされたら、 **【完了】** をクリックしてセットアップ画面を終了してください。

あるいは、ChemStation インストールメディアから Adobe Reader をインストールすることができます。Disk1¥Tools¥Adobe Reader にあります。

AcroRdr_MUI.bat を実行し、Adobe Reader セットアップウィザードの説明に従います。

注記

PDF ファイルを初めて開くと、Adobe Reader の使用許諾契約画面が表示されます。このダイアログボックスは、機器を新しく設定するたびに表示されません。

Windows での Adobe Acrobat Reader の設定：

- 1 Adobe Acrobat Reader をデフォルトの PDF ビューアーとして設定します。
 - a Windows7：Microsoftコントロールパネルで、**【既定のプログラム】** > **【既定のプログラムの設定】** の順に移動し、リストから Adobe Acrobat Reader を選択して **【すべての項目に対し、規定のプログラムとして設定する】** をクリックします。
または
Windows 10：**【設定】** > **【アプリ】** > **【既定のアプリ】** の順に移動し、**【ファイルの種類ごとに既定のアプリを選ぶ】** を選択します。リストの **【.pdf】** へ移動し、**【Adobe Acrobat Reader】** をデフォルトとして選択します。
 - b Adobe Acrobat Reader をデフォルトの PDF ビューアーとして選択します。
- 2 Adobe 更新サービスを無効にします。
 - a Windows [スタート] メニューで、**【サービス】** を検索します。検索結果の **services.msc** をクリックします。
 - b **【Adobe Acrobat Update Service】** を停止します。
 - c サービスのプロパティで、[スタートアップの種類] を **【手動】** に設定します。

Adobe Acrobat Reader 設定の確認：

- 1 Acrobat Reader で **【編集】** > **【環境設定】** をクリックします。
- 2 **【一般】** カテゴリを選択します。
 - a **【同じウィンドウで新しいタブとして文書を開く】** チェックボックスがオフになっていることを確認します。この設定をオンにした場合、**【レポートビューアー】** 機能を使用するとエラーが発生します。
 - b **【Adobe Acrobat Reader の起動時にメッセージを表示】** チェックボックスをオフにします。この設定をオンにした場合は、Adobe のメッセージは無視してください。

Keysight IO Libraries Suite のインストール

IO Libraries は、LC/MS および CE/MS 機器の場合のみ必要です。

IO Libraries をインストールする：

- 1 インストーラから、**【インストール】** を選択します。
- 2 **【サードパーティツール】** の **【Keysight IO Libraries】** を選択します。Keysight IO Libraries のセットアップ画面が開きます。
- 3 **【インストール】** をクリックして続行します。
- 4 Keysight IO Libraries が正常にインストールされたら、**【完了】** をクリックしてセットアップ画面を終了します。

.NET Framework のインストール

.NET 3.5 のインストール

システムに .NET 3.5 がインストールされていない場合、インストールウィザードによって自動的にインストールされます。事前にインストールするには、以下の手順に従ってください。

- 1 Microsoft コントロールパネルを選択します。

Windows [スタート] メニューで、**【プログラムとファイルの検索】** フィールドに「コントロールパネル」と入力します（または、[Win+R] を押して「コントロールパネル」と入力します）。コントロールパネルビューにすべての項目を表示するには、**【表示方法】** フィールドの **【小さいアイコン】** を選択します。

- 2 **【プログラムと機能】** へ移動します。
- 3 .NET 3.5 を以下のように有効にします。

これには、**インターネット接続が必要**です。

- Windows 10 の場合：**【.NET Framework 3.5 (.NET 2.0 および 3.0 を含む)】** ノードを展開します。
- Windows 7 の場合：**【Microsoft .NET Framework 3.5.1】** ノードを展開します。

どちらの場合も、**【Windows Communication Foundation 非 HTTP アクティブ化 (Windows Communication Foundation Non-HTTP Activation)】** チェックボックスをオンにします。

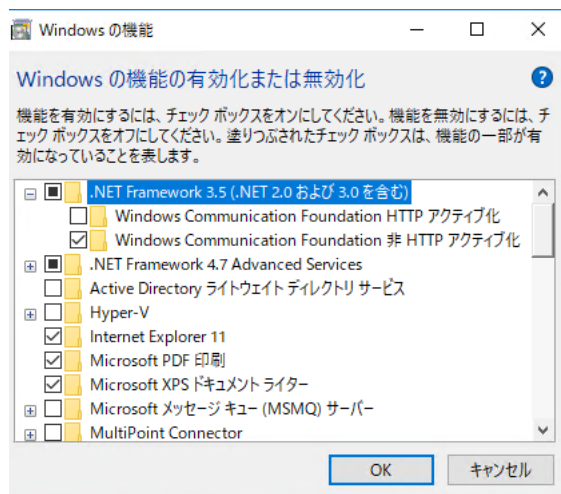


図 1 .NET 3.5 を有効にする (Win 10)

注記

これが予想どおりに機能しない場合や、コンピュータがインターネットにアクセスできない場合は、Windows インストールメディアから .NET 3.5 をインストールしてください。Windows 10 の場合、<https://support.microsoft.com/ja-jp/kb/2734782> の詳細 10 を参照してください。

インストールメディアがない場合は、<https://www.microsoft.com/ja-jp/software-download/windows10> の説明に従って作成してください。

.NET 4.7 のインストール

システムに .NET 4.7.2 がインストールされていない場合、インストールウィザードによって自動的にインストールが開始されます。.NET 4.7.2 をマニュアルでインストールすると、Windows によりインストールファイルへの書き込みアクセスが要求されます。このため、USB メディアからの直接インストールはできません。

- 1 フォルダ `Disk1¥Tools¥DotNet4.7` をローカルディスクにコピーします。
- 2 `dotNetFx_Full_x86_x64.bat` を実行します。
- 3 インストールウィザードに従います。
- 4 コンピュータを再起動します。

プリンタの設定

通常使うプリンター

デフォルトプリンターがWindowsでコンフィグレーションされていることを確認してください。ChemStationを実行するすべてのWindowsユーザーには、ユーザープロファイルで設定されたプリンターが必要です。プリンターが接続されていなくても、プリンタードライバは物理プリンター用にしてください。PDFやXPSライターなどのファイルへのプリンター設定では不十分です。

これは、Microsoftコントロールパネルから行います。デフォルトプリンターがコンフィグレーションされていない場合、以下の問題が発生する可能性があります。

- レポートプレビューの出力に失敗する。
- **【クリップボードへコピー】** メニューでエラーが発生する。
- **【カスタムレポート表示】** の新規テンプレートで問題が発生する。

PDF XChange プリンタ

ChemStation C.01.10のインストール時に、PDF XChange 6 プリンタドライバがインストールされます（リビジョン6.0.317.1）。

印刷制限

1つの印刷ジョブで印刷できる最大ページ数は1500ページです。例えばシーケンスサマリレポートは、1つの印刷ジョブです。

複数ページのクロマトグラムを印刷する場合（**【レポート条件】** ダイアログボックスで指定）、正しく印刷できる最大ページ数はプリンタの解像度によって異なります。クロマトグラムごとに印刷可能なページ数は、300 dpiでは10ページ、600 dpiでは最大6ページです。

ネットワークプリンタをローカルプリンタとして追加

プリンターが正しく機能することを確認してください。以下の手順に従って、ネットワークプリンターをローカルプリンターとして追加します。Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition では、機器のコンフィグレーション時にこのプリンターを通常使うプリンターとして選択できます。

- 1 Microsoft コントロールパネルの **【デバイスとプリンター】** へ移動します。
- 2 **【プリンターの追加】** をクリックします。
- 3 **【プリンターが一覧にない場合】** をクリックし、**【ローカルプリンターを追加する】** を選択し **【次へ】** をクリックします。
- 4 **【新しいポートの作成】** を選択し、ポートの種類の**ローカルポート**を選択して **【次へ】** をクリックします。
- 5 **【ポート名】** に、プリンターへのネットワークパスを入力します。ネットワークパスは、¥¥ に続いてプリンターを共有するコンピュータ名またはその PC の IP アドレス、その後 ¥ に続いてプリンターの共有名を指定します。例：¥¥PTPRINT¥PG5-B、¥¥192.168.1.100¥hprinter。
- 6 プリンタードライバーを選択し、**【次へ】** をクリックします。正確なモデルが表示されていない場合、最も近いモデル番号または一般的なプリンターを選択します。
- 7 残りのウィザードに従います。

注記

グラフィックや画像の印刷品質は、プリンターのハードウェアやメンテナンス状態、コンフィグレーション、印刷オプション、用紙の品質によって異なります。印刷中に画像やグラフィックのサイズを変更すると、印刷品質の低下につながる場合があります。プリンターに適した用紙サイズとページ余白を選択してください。

ChemStation のインストールを開始する前に

ソフトウェアのインストールを簡素化するため、インストールを開始する前に一部の設定を決めておく必要があります。

1 コンピューター名を決めます。

コンピューター名は、機器コンフィグレーションに反映されます。煩雑な作業を避けるため、Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Editionのインストール後はコンピューター名を変更しないことをお勧めします。

注記

DNS サーバーがコンピューター名を確実に解決することができるように、インターネット基準プロトコル (RFC952) に従い、以下の文字を使用してください。

- 文字 (a-z、A-Z)
- 数字 (0-9)
- ハイフン (-)

下線は使用しないでください。

- 2 ワークステーションの管理者権限があることを確認してください。パワーユーザー権限では不十分です (インストールを開始できません)。
- 3 データ、メソッド、シーケンス、コンフィグレーションなど、データシステムソフトウェアに関連するすべてのファイルを保存するディレクトリの場所を決めます。
- 4 ソフトウェアをインストールする方法を決めます。
 - **USB メディアから直接インストールする** — USB メディアをワークステーションコンピュータに直接挿入します。(推奨)
 - **指定したロケーションにインストールファイルをコピーする** — ユーティリティを使用してインストールファイルをネットワーク共有フォルダーなどにコピーし、そのロケーションからインストールを実行することができます。ただしネットワークによってはインストールに支障をきたす場合があります (「指定したフォルダーにインストールファイルをコピーしてインストールする」 47 ページを参照)。

ChemStation のインストールを開始する前に

- 5 ソフトウェアをインストールする前に、コンピュータがすべての要件を満たしていることを確認します。Documentation and Learning プラットフォームから『OpenLab CDS ChemStation Edition 要件ガイド』（CDS_CS_HW-SW-Requirements.pdf）にアクセスできます。
 - a インストールメディアの Disk1¥DOCS¥へ移動し、welcome.html を開いて Documentation and Learning にアクセスします。
 - b 言語を選択します。
 - c **【ようこそ】** ページの **【サイトプレパレーション】** > **【サイトプレパレーションと要件】** へ移動し、**【CDS ChemStation Edition ハードウェアおよびソフトウェア要件】** を選択します。
この PDF を使用して、設定がネットワーク要件に準拠していることを確認し、ハードウェアとソフトウェアがシステムをサポートしているかどうかを確認できます。
- 6 A/D 接続、インターフェイス、検出器、通信ケーブルなど、必要なハードウェアをすべて接続します。
- 7 すべてのコンポーネントを正常にインストールおよびアクティベーションできるようにするため、LAN ケーブルが接続され、ネットワークが利用できることを確認してください。ローカルネットワークで十分です。ネットワークケーブルを接続せずに Secure Workstation をインストールした場合、Content Management のアクティベーションが失敗し、Content Management を実行しようとするエラーが返されます。
- 8 インストールを行う間は、ウイルス対策ソフトウェアを無効にしてください。
- 9 最新のグラフィックカードドライバーがインストールされていることを確認してください。ベンダー固有の最新のドライバーをインストールしてください。一般的なドライバーは使用しないでください。
- 10 ハードウェアアクセラレータを無効にします。以下のレジストリキーが存在し、正しく設定されていることを確認します。
[HKEY_CURRENT_USER¥SOFTWARE¥Microsoft¥Avalon.Graphics]
"DisableHWAcceleration"=dword:00000001
- 11 .NET 3.5 と .NET 4.7 が Windows の機能として有効になっているか確認してください。
インストール手順については、「**.NET 3.5 のインストール**」15 ページおよび「**.NET 4.7 のインストール**」16 ページを参照してください。

PCの準備

ChemStation のインストールを開始する前に

- 12** インストールパッケージやソフトウェア製品のソフトウェアアップデートがないか Agilent サービスノートを確認します。サービスノートは Agilent 販売代理店から入手できます。

オペレーティングシステムの設定

注記

Windows のユーザーアカウント制御 (UAC) をオンにしている場合は、変更する設定によっては、作業の続行を明示的に承認しなければならないことがあります。

PC コンフィグレーションチェッカー

OpenLab CDS ChemStation Edition コンフィグレーションチェックツールは、オペレーティングシステムのコンフィグレーションを準備またはトラブルシューティングしたり、コンピューターの問題を防止したりするのに役立ちます。

このツールでは、2種類のコンフィグレーションチェックが行えます。

- 必須：OpenLab ChemStation Edition をインストールする前に適用する必要があるすべての**必須**設定をチェックして修正します。
- オプション：パフォーマンスおよびユーザビリティの設定をチェックします。コンフィグレーション設定はユーザー固有であり、ユーザーごとに個別に設定する必要があります。

このツールは .diagcab ファイルであり、Microsoft Windows Troubleshooting Platform (WTP) プログラムで使用するファイルフォーマットになっています。Microsoft Windows Troubleshooting Platform (WTP) は、Windows でハードウェアおよびソフトウェアの設定を見つけて修正するためのプラットフォームです。これは、コンピューター設定の診断と修正に使用されています。

一般的に、.diagcab ファイルは独立再生形式であり、インストールが不要なため、トラブルシューティングパックを展開するには有用です。
.diagcab ファイル名拡張子は、WTP が実行できるファイル名拡張子として登録されています。

コンフィグレーションチェックが必須設定用かオプション設定用かに応じて、異なる .diagcab ファイルを実行する必要があります。

- 必須設定用のコンフィグレーションチェックを実行するには、ファイル *Agilent.Wtp.ChemStation.WindowsConfiguration.diagcab* を使用する必要

があります。このファイルは Disk1¥Tools¥Windows Configuration Tools¥Mandatory Settings にあります。

- オプション設定用のコンフィグレーションチェックを実行するには、ファイル *Agilent.Wtp.ChemStation.WindowsConfiguration.diagcab* を使用する必要があります。このファイルは Disk1¥Tools¥Windows Configuration Tools¥Optional Settings にあります。

- 1 コンフィグレーションチェックを開始する前に、.diagcab ファイルをローカルディスクにコピーします。
- 2 管理者としてツールを実行して、すべての設定が適用されることを確認します。開始ページで **【詳細設定】** を選択し、**【管理者として実行】** をクリックします。

設定が適用されたら、レポートを作成して、どの設定が変更されたかを確認できます。

- 3 レポートを作成するには：
 - a **【トラブルシューティング完了】** ページで、**【詳細情報の表示】** をクリックします。
 - b **【印刷】** ボタンをクリックしてレポートを作成します。
- 4 コンフィグレーションツールの実行後は PC を再起動します。

注記

コンフィグレーションチェッカー実行時の注意事項：

- 実行中のコンピューターの電源を他のユーザーが切らないように注意してください。
- Win7：メニューバーが有効であることを確認してください（**【整理】** > **【レイアウト】** をクリックし、**【メニューバー】** を選択します）。
- コンフィグレーションツールの実行後に PC を再起動することが非常に重要です。

マニュアルコンフィグレーション手順

Windows システムで Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition が正しく動作するためには、この文書に記載されている Windows 設定変更を行う必要があります。一部の変更は、アプリケーションのパフォーマンスを最適化するためものです。その他の変更はユーザビリティに影響します。

コンフィグレーション設定は、Windows システムとの関連に従って、必須、パフォーマンス、ユーザビリティのカテゴリーにグループ化されています。オペレーティングシステムによっては、特別なコンフィグレーション手順が必要な場合があります。

以下のセクションで、各カテゴリーのコンフィグレーション手順について個別に説明します。指示に従って Windows システムをコンフィグレーションしてください。または、OpenLab CDS コンフィグレーションチェックツールを実行してください（「PC コンフィグレーションチェッカー」22 ページを参照）。

注記

Windows 7 ユーザーの場合のみ

ChemStation をインストールする前に、Windows 修正プログラム KB2999226（**Windows での汎用の C ランタイムの更新プログラム**）がシステムにインストールされていることを確認してください。

<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/2999226/update-for-universal-c-runtime-in-windows> を参照してください。

必須コンフィグレーション手順

このセクションの手順には、インストールに必要なすべてのコンフィグレーション手順が含まれており、正しくインストールを行いデータの消失を回避するために必要です。

Microsoft コントロールパネル：

Windows [スタート] メニューで、**[プログラムとファイルの検索]** フィールドに「コントロールパネル」と入力します（または、[Win+R] を押して「コントロールパネル」と入力します）。コントロールパネルビューにすべての項目を表示するには、**[表示方法]** フィールドの **[小さいアイコン]** を選択します。

- 1 **[管理ツール]**：セキュリティオプションの設定：
 - a **[ローカルセキュリティポリシー]** を変更します
 - b **[セキュリティの設定]** > **[ローカルポリシー]** > **[セキュリティオプション]** の順に選択します。

- c 右側のパネルに表示される、以下のポリシーをダブルクリックします。**【ネットワークアクセス：ローカルアカウントの共有とセキュリティ モデル】**
 - d 表示されたダイアログで、ドロップダウンリストから次の項目を選択します。**【クラシック：ローカルユーザーがローカルユーザーとして認証する】**
- 2 **【ネットワークと共有センター】**：
- a **【アダプターの設定の変更】** を選択します。イーサネットアダプターを右クリックし、**【プロパティ】** を選択します。**【一般】** タブの**【コンフィグレーション】** をクリックします。
 - b **【電源の管理】** タブで、すべてのチェックボックスをオフにします。
- 3 **【電源オプション】**：
- a お気に入りのプランとして**【高パフォーマンス】** を選択します。
 - b **【プラン設定の変更】** をクリックします。
 - c **【コンピューターをスリープ状態にする】** オプションを**【適用しない】** に設定します。
 - d **【詳細な電源設定の変更】** をクリックします。
 - e **【ハードディスク】 > 【次の時間が経過後ハードディスクの電源を切る】** の順にノードを開きます。
 - f **【分】** を 0 (=なし) に設定します。
- 4 **【プログラムと機能】**：
- a **【Windows の機能の有効化または無効化】** をクリックします。
 - b **【Telnet クライアント】** チェックボックスをオンにします。
 - c **【TFTP クライアント】** チェックボックスをオンにします。
 - d 必要に応じて PC を再起動します。
- 5 Windows 7 のみ：
- 【管理ツール】**：サービスを無効にします。
- **【サービス】** をダブルクリックします。
 - 以下のサービスのスタートアップの種類を**【無効】** に設定します。
 - **Application Experience**
 - **Desktop Window Manager Session Manager**

その他の Windows 設定：

- Windowsログオンオプションを設定するには、**【スタート】** を右クリックし、コンテキストメニューから **【ファイル名を指定して実行】** を選択して、**【ファイル名を指定して実行】** フィールドに **gpedit.msc** と入力します。
 - 【ローカルコンピューターポリシー】 > 【コンピューターの構成】 > 【管理用テンプレート】 > 【システム】 > 【ログオン】** の順に選択します。
 - 【ユーザーの簡易切り替えのエントリポイントを非表示にする】** と **【常に従来のログオンを使う】** を **【有効】** に設定します。
- Windows 10 のみ：**【スタート】 > 【設定】 > 【更新とセキュリティ】 > 【Windows セキュリティ】**：
 - 【Windows Defender セキュリティセンターを開きます】** をクリックします。
 - 【アプリとブラウザー コントロール】** をクリックします。
【アプリとファイルの確認】、**【Microsoft Edge の SmartScreen】**、および **【Windows ストア アプリの SmartScreen】** をオフにします。
- Windows 10 のみ：**【スタート】 > 【設定】 > 【デバイス】 > 【プリンターとスキャナー】**：通常使うプリンターを選択します。
 - 【Windows で通常使うプリンターを管理する】** をオフにします。
 - デフォルトとして設定するプリンターをクリックし、**【管理】** をクリックします。
 - プリンター設定で、**【既定として設定する】** をクリックします。

パフォーマンスコンフィグレーション手順

このセクションの手順には、システムパフォーマンスを向上させるコンフィグレーション手順が含まれます。これらの設定はオプションです。

Microsoft コントロールパネル：

- 【システム】**：システムプロパティの変更：
 - 【システムの詳細設定】** をクリックします。
 - 【詳細設定】** タブの **【パフォーマンス】** の下にある **【設定】** をクリックします。

- **【詳細設定】** タブ > **【仮想メモリ】** : 最適なパフォーマンスを得るには、**【変更】** ボタンを使用して、ページングファイルのサイズを PC の物理 RAM 容量の 2～3 倍に設定します。可能であれば、システムインストールドライブとは別のドライブのページングファイルを指定してください。
 - **【データ実行防止】** タブ : **【重要なWindowsのプログラムおよびサービスについてのみ有効にする】** を選択します。
【OK】 をクリックして **【パフォーマンスオプション】** ダイアログを閉じます。
- c Windows 10 および Windows 7 の場合のみ :
- 【システムの保護】** タブ :
- 【保護】** が無効であることを確認します。必要に応じて、**【構成】** をクリックし、**【システムの保護を無効にする】** を選択します。
- 2 Windows 10 および Windows 7 のみ : **【インデックスのオプション】** : インデックス作成を無効にします。
【変更】 ボタンをクリックします。**【すべての場所の表示】** を選択し、すべてのドライブと場所の選択を解除します。

その他の Windows 設定 :

- 1 Windows 10 のみ : **【スタート】** > **【設定】** > **【個人用設定】** > **【色】** : **【透明効果】** をオフにします。

ユーザビリティコンフィグレーション手順

このセクションの手順には、Windows アプリケーションのユーザビリティを向上させるコンフィグレーション手順が含まれます。これらの設定はオプションです。

Microsoft コントロールパネル :

- 1 **【エクスプローラーのオプション】** (Windows 7 の場合は **【フォルダーオプション】**) : **【表示】** タブで
- **【常にメニューを表示する】** を選択します。
 - **【タイトルバーに完全なパスを表示する】** を選択します。
 - **【登録されている拡張子は表示しない】** の選択を解除します。
 - **【共有ウィザードを使用する】** の選択を解除します。

2 【システム】：システムプロパティの変更：

- a 【システムの詳細設定】をクリックします。
- b 【詳細設定】 タブの【起動と回復】の下にある【設定】をクリックします。
 - 【起動システム】 セクション：
【...を表示する時間】の両方を、30秒から3秒に変更します。
 - Windows 10 および Windows 7 の場合のみ：【システムエラー】セクションで次の操作を行います。
 - a 【自動的に再起動する】を選択します。
 - b 【デバッグ情報の書き込み】サブセクションで、ドロップダウンリストから【カーネルメモリダンプ】を選択します。【OK】をクリックして【起動と回復】ダイアログを閉じます。
- c 【詳細設定】 タブの【パフォーマンス】の下にある【設定】をクリックします。【視覚効果】 タブで：
 - 【コンピューターに応じて最適なものを自動的に選択する】を選択し、【適用】をクリックします。
【カスタム】を選択し以下のチェックボックスを選択すると、使用性が高まります。
 - 【マウス ポインターの下に影を表示する】
 - 【ウィンドウの下に影を表示する】
 - 【スクリーンフォントの縁を滑らかにする】【OK】をクリックして【パフォーマンスオプション】ダイアログを閉じます。

その他の Windows 設定：

- 1 ナビゲーションウィンドウを有効にします。
 - Windows 10：Windows Explorer を開き、リボンから【表示】 > 【ナビゲーションウィンドウ】を選択し、【ナビゲーションウィンドウ】が選択されていることを確認します。
 - Windows 7：Windows Explorer を開き、【整理】 >> 【レイアウト】を選択し、【ナビゲーションウィンドウ】が選択されていることを確認します。

- 2 Windows 7のみ： [スタート] メニューの全般的なレイアウトを設定します。（ [スタート] を右クリックし、 > [プロパティ] をクリックします）。
 - a [スタートメニュー] タブ: [プライバシー] セクションで両方の項目を選択します。
 - b [スタートメニュー] タブの [カスタマイズ] ボタンを選択します。 [スタートメニューのカスタマイズ] ダイアログボックスで、以下の手順を実行します。
 - 次のオプションの選択を解除します。
 - [[お気に入り] メニュー]
 - 次のオプションを選択します。
 - [コンピューター] の下の [リンクとして表示する]
 - [接続先]
 - [コントロールパネル] の下の [メニューとして表示する]
 - [既定のプログラム]
 - [デバイスとプリンター]
 - [ドキュメント] の下の [リンクとして表示する]
 - [コンテキストメニューと [スタート] メニューへの項目のドラッグ/ドロップを有効化する]
 - [ゲーム] の下の [この項目を表示しない]
 - ヘルプ
 - [新しくインストールされたプログラムを強調表示する]
 - [ミュージック] の下の [この項目を表示しない]
 - [ネットワーク]
 - [マウスポインターを置いたときにサブメニューを開く]
 - [個人用フォルダー] の下の [リンクとして表示する]
 - [ピクチャ] の下の [リンクとして表示する]
 - [[ファイル名を指定して実行] コマンド]
 - [その他のファイルとライブラリを検索する] の下の [パブリックフォルダーも検索する]
 - [プログラムおよびコントロールパネルを検索する]

- [[すべてのプログラム] メニューを名前ですべて替える]
 - [システム管理ツール] の下の [[すべてのプログラム] メニューと [スタート] メニューに表示する]
 - [大きいアイコンを使用する]
- 3 Windows 10 および Windows 7 のみ：Windows のログオンオプションを設定します。 [スタート] を右クリックし、コンテキストメニューから [ファイル名を指定して実行] を選択して、 [名前] フィールドに **gpedit.msc** と入力します。
- a [ローカルコンピューターポリシー] > [コンピューターの構成] > [管理用テンプレート] > [システム] > [ログオン] の順に選択します。
 - b [ログオン時によろこ画面を表示しない] を [有効] に設定します。
- 4 **ごみ箱のプロパティ**：（デスクトップにある [ごみ箱] アイコンを右クリックし、 [プロパティ] を選択します。）以下のオプションを選択します。
- [カスタムサイズ] を選択し、最大サイズをドライブの全ディスク容量の約 10% に設定します。
 - [削除の確認メッセージを表示する] を選択します。
- 上記の手順をコンピュータのすべてのドライブで繰り返します。
- 5 Internet Explorer をデフォルトの Web ブラウザーとして選択します。
- Windows 10 のみ：
 - a [スタート] > [設定] > [アプリ] > [既定のアプリ] で、Internet Explorer をデフォルトの Web ブラウザーとして選択します。
 - Windows 7 のみ：
 - a Microsoft コントロールパネルの [既定のプログラム] > [既定のプログラムの設定] で、Internet Explorer をリストから選択します。
 - b [このプログラムを既定として設定する] をクリックします。

- 6 Windows 10 のみ： **【スタート】 > 【設定】 > 【システム】 > 【タブレットモード】**：
 - a **【サインイン時の動作】** で、 **【デスクトップモードを使用します】** を選択します。
 - b **【デバイスがタブレットモードのオンとオフを自動的に切り替えるとき】** で、 **【確認せず、切り替えも行わない】** を選択します。
- 7 Windows 10 のみ： **【スタート】 > 【設定】 > 【アプリ】 > 【オフラインマップ】**：**【従量制課金接続】** と **【マップの更新】** をオフにします。
- 8 Windows 10 のみ： **【スタート】 > 【設定】 > 【プライバシー】**：
 - a **【全般】** ページで、以下をオフにします。
 - **【アプリの使用状況に基づいてユーザーに合わせた広告を表示するために、広告識別子の使用をアプリに許可します（オフにすると、ID がリセットされます）】**
 - **【Web サイトが言語リストにアクセスできるようにして、地域に適したコンテンツを表示する】**
 - **【Windows 追跡アプリの起動を許可してスタート画面と検索結果の質を向上します】**
 - b **【位置情報】** ページで、このデバイスの位置情報がオフになっていることを確認します。オンの場合は、 **【変更】** をクリックしてオフにします。
- 9 Windows 10 のみ： **【スタート】 > 【設定】 > 【個人用設定】**：広告情報を無効：
 - a **【ロック画面】** ページ：
 - **【背景】** で、 **【画像】** または **【スライドショー】** を選択します。
 - **【Windows と Cortana に関するトリビアやヒントなどの情報をロック画面に表示する】** をオフにします。
 - **【サインイン画面にロック画面の背景画像を表示する】** をオフにします。
 - b **【スタート】** ページ：**【ときどきスタート画面にお勧めを表示する】** をオフにします。
- 10 Windows 10 のみ： **【スタート】 > 【設定】 > 【個人用設定】**：**【タスクバー】** で、 **【タスクバー ボタンを結合する】** の下から、 **【タスクバーに入りきらない場合】** を選択します。

これにより、CDS インスタンスを開いている間の切り替えが単純化されます。

LC/MS システムと CE/MS システムのセキュリティ設定の編集

このセクションでは、LC/MS と CE/MS に必要なすべてのセキュリティ設定についてまとめます。他のセキュリティ設定は、OpenLab CDS ChemStation Edition インストーラによって自動的に行われます。

OpenLab CDS ChemStation Edition は、オペレーティングシステムの管理者ユーザーアカウントを使ってインストールする必要があります。ここでは、すべてのユーザーとパワーユーザーが同じ設定を使用することを前提にして、システムのオプションを設定する方法を説明します。

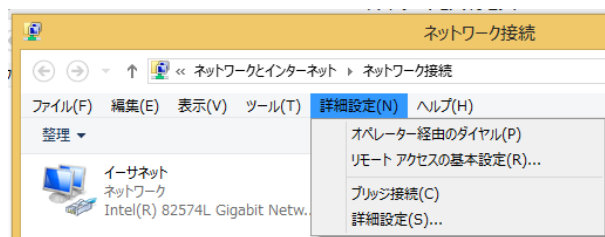
ファイアウォール

LC/MS システムまたは CE/MS システムをコントロールする PC のファイアウォールをオフにすることをお勧めします。

ネットワークの詳細設定

MS との通信は、**【アダプターとバインド】** ダイアログボックスに NIC が表示される順番の影響を受けます。

- 1 **【スタート】** > **【コントロールパネル】** の順に選択します。
【ネットワークと共有センター】 に移動します。¹
- 2 **【アダプターの設定の変更】** をクリックします。
- 3 **Alt** キーを押して、メニューバーを表示します。



¹ すべての項目の一覧を見るには、アイコン表示に切り替えてください。

4 【詳細設定...】を選択します。

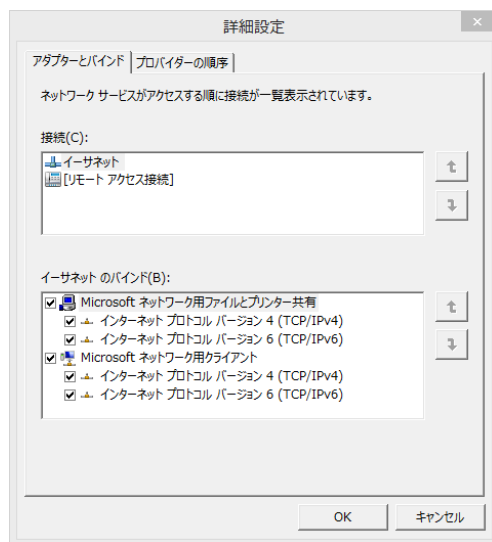


図2 【詳細設定】ダイアログボックスの
【アダプターとバインド】タブ

5 【アダプターとバインド】タブ (33ページ 図2を参照) で、次の操作を行います。

- a 「LC/MS」または「CE/MS」のNICに関連しているLAN接続が、接続リストの1番目の項目になっていることを確認します。

注記

LANカードの名前は例で示したものと異なることがあります。LANカードに割り当てられたIPアドレスを比較することで、装置のLANがどのLANカードか分かります。

社内イントラネット>インターネットに関連しているLANは、通常、社内の固定IPポリシーまたはDHCPサーバーにより割り当てられたIPアドレスを持ちます。ネットワーク管理者にお問い合わせください。

2

ソフトウェアのインストール

インストールの準備 35

パスワード管理 35

OpenLab CDS インストールウィザードの実行 36

使用許諾契約書の画面 36

インストールフォルダー画面 36

インストールの種類画面 37

サマリ画面 38

ソフトウェアは、OpenLab CDS ChemStation Edition インストーラで自動的にインストールされます。このツールにより、必要なコンポーネントがすべてインストールされます。

インストールの準備

- 1 インストールを行う間は、ウイルス対策ソフトウェアを無効にしてください。
- 2 インストール中は Windows Update サービスを実行しないでください。ChemStation のインストール中に Windows Update が実行されないようにしてください。
- 3 システムの再起動が保留となっていないことを確かめてください。
再起動の保留中は、コンフィグレーションチェッカー（「PC コンフィグレーションチェッカー」 22 ページを参照）とサイトプレパレーションツール（「サイトプレパレーションツールの実行」 11 ページを参照）の両方で示されます。
- 4 インストールを開始するには、¥Disk1¥Setup.bat へ移動します。ファイルを右クリックし、管理者として実行して **【プラン】** 画面に進みます。

パスワード管理

インストール時に、次のロールのパスワードを入力する必要があります。

- PostgreSQL データベースの管理
- Shared Services データベースの管理
- Content Management データベースの管理

会社のパスワード管理方針に従って、これらのパスワードへのアクセスが制限されるようにしてください。

これらのパスワードは、高度なデータベース管理を行う場合のみ必要です。通常の運用や管理では必要ありません。最初にコントロールパネルへログインするとき、初期パスワードが必要となります（「初回ログイン」 66 ページを参照）。

OpenLab CDS インストールウィザードの実行

使用許諾契約書の画面

- 1 OpenLab CDS ChemStation Edition インストーラから、**【インストール】** を選択します。
- 2 **【Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition】** を選択します。
- 3 **【OpenLab CDS ウィザード】** が開きます。**【使用許諾契約書】** をお読みください。インストーラ メインメニューの **【リソース】** オプションでは、使用許諾契約書が印刷可能な PDF ファイルで提供されています。
- 4 **【規約に同意します】** を選択します。この条件に同意しない場合はインストールを開始できません。
- 5 **【次へ】** を選択し、**【インストールフォルダー】** 画面に進みます。

インストールフォルダー画面

- 1 フォルダ名を入力するか、アプリケーションコンポーネントの保存先ディレクトリ（通常これはプログラムフォルダーにあります）に移動します。フォルダ名は英語にしてください。

注記

ドライブのルートディレクトリへのインストールは、操作中に問題を引き起こす場合があるため、サポートしていません。

- 2 インストール時にトレーニングドキュメントをインストールするには、**【e-familiarization をインストール】** を選択します。これによりインストールの時間が大幅に長くなります。
- 3 インストールの一部としてインストールの確認を実行するには、**【ソフトウェアベリフィケーションの実行】** を選択します。Software Verification Tool では、使用するシステムが正しく構築およびインストールされ、設計仕様通りになっていることを示す文書が提供されます。Software Verification Tool は、後日実行することもできます（「ソフトウェアインストール後のソフトウェアベリフィケーションの実行」41 ページを参照）。

- 4 **【次へ】** を選択し、**【インストールの種類】** 画面に進みます。

インストールの種類画面

- 1 **OpenLab CDS ChemStation Edition**のために、以下のフォルダーパスを指定します。

- **インストールフォルダー**：ChemStation アプリケーションコンポーネントの保存先ディレクトリ。通常はプログラムフォルダーにあります。注：フォルダー名にスペースを使用することはできません。
- **機器データフォルダー**：メソッド、シーケンス、結果など、機器固有のデータ。デフォルトデータパスは、パブリックのドキュメントフォルダーです。セキュアファイルI/O機能を有効にする場合、このフォルダーを後で共有しないでください。PCに2つ目のディスクドライブを持っている場合、デフォルトデータパスをこのドライブに変更することをお勧めします。2つ目のディスクドライブを使用することでパフォーマンスが向上します。

- 2 **【次へ】** を選択し、**【追加項目】** 画面に進みます。

- 3 **【Content Management コンテンツパス】**、**【Content Management インデックスパス】**、および**【Content Management アーカイブパス】**で必要なフォルダー名を入力するか、ディレクトリに移動します。注：フォルダー名にスペースを使用することはできません。

注記

Content Management コンテンツの場合は十分な空きスペースがあるドライブを使用してください。

【Content Management コンテンツパス】と**【Content Management アーカイブパス】**に同じドライブを使用し、**【Content Management インデックスパス】**には異なるドライブを使用することを推奨します。例：

- D:¥DSContent
- C:¥DSIndex
- D:¥DSArchive

- 4 **【PostgreSQL】**にフォルダー名を入力するか、PostgreSQL データベースファイルの保存先ディレクトリに移動します。例：C:¥PostgreSQL Data

PostgreSQL 管理者用に設定するパスワードを入力します。パスワードは 8 文字以上で構成し、小文字、大文字、数字、特殊文字をそれぞれ 1 文字以上含んでいる必要があります。

- 5 **【次へ】** を選択し、**【データベース】** 画面に進みます。
- 6 **【Shared Services】** および **【OpenLab Content Management】** にデータベース名を入力するかデフォルト名を使用し、必要に応じてユーザーおよび管理者のアカウントを作成します。
- 7 **【次へ】** を選択し、**【サマリ】** 画面に進みます。

サマリ画面

- 1 インストールサマリーが表示されます。必要に応じ、**【戻る】** でインストールの設定を変更したり、**【キャンセル】** でインストールをキャンセルしたりすることができます。

【開始】 を選択してインストールを開始します。

- 2 システムチェックが自動的に実行され、リストされているアクティビティに進みます。

【システムチェック合格】 というメッセージが表示された場合、インストールは続行されます。

【システムチェックで問題が発生しました】 というメッセージが表示された場合、以下のいずれかを実行できます。

- システムレポートを確認せずに、インストールを続行する。
- システムレポートを確認せずに、インストールを延期する。
- システムレポートを確認し、インストールを続行する。
- システムレポートを確認し、インストールを中断して問題を修正する。

注記

システムレポートを PDF ファイルとして表示するには、Adobe Reader がインストールされている必要があります（「[Adobe Acrobat Reader のインストールと設定](#)」13 ページを参照してください）。

- 3 インストールの一部としてインストールの確認を行った場合は、**【ソフトウェアベリフィケーションレポート】**を確認します。レポートに不合格と表示されている場合、コンピュータの要件を確認し、データシステムを再インストールしてください。ソフトウェアベリフィケーションレポートの結果が「合格」となるまで、システムを使用しないでください。
- 4 **【次へ】** をクリックし、**【インストールした機能】** 画面に進みます。
- 5 **【完了】** をクリックし、インストールを終了します。
- 6 コンピュータを再起動します。

3

インストール後のタスク

ソフトウェアインストール後のソフトウェア ベリフィケーションの実行	41
ChemMain のファイアウォール設定	42
ウィルス対策プログラムの設定	43

この章では、インストール終了後に行うタスクについて説明します。

ソフトウェアインストール後のソフトウェア ベリフィケーションの実行

Software Verification Tool (SVT) では、使用するシステムが正しく構築およびインストールされ、設計仕様通りになっていることを示す文書が提供されます。

- 1 Windows オペレーティングシステムを使用して、**【スタート】 > 【すべてのプログラム】 > 【Agilent Technologies】 > 【Software Verification Tool】** を選択します。
- 2 **【Qualify】** を選択します。
アプリケーションが実行され、ソフトウェアベリフィケーションレポートが作成されます。
- 3 レポートに不合格と表示されている場合、コンピュータの要件を確認し、データシステムを再インストールしてください。
ソフトウェアベリフィケーションレポートの結果が「合格」となるまで、システムを使用しないでください。

ChemMain のファイアウォール設定

以下の手順を実行して、ファイアウォールの制限により ChemStation が正しく機能しなくなるのを防止します。2 番目のネットワークカードを使用して機器のデータトラフィックを分離し、2 番目のネットワークカードに対してのみ以下の手順を実行してください。

または、必要なファイアウォールポートがすべて開いていることを確認してください。詳細については、『OpenLab CDS ChemStation Edition 要件ガイド』（CDS_CS_HW-SW-Requirements.pdf）を参照してください。

- 1 Microsoft コントロールパネルで、**[Windows Defender ファイアウォール]** をクリックします。¹
- 2 **[Windows Defender ファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可]** をクリックします。
- 3 **[設定の変更]** をクリックします。
[別のアプリの許可...] ボタンがアクティブになります。
- 4 **[別のアプリの許可...]** をクリックします。
- 5 **[参照...]** をクリックし、C:\Program Files (x86)\Agilent Technologies\ChemStation\CORE へ移動します。
- 6 ChemMain.exe を選択し、**[開く]** をクリックします。
- 7 **[追加]** をクリックします。
- 8 許可されたアプリおよび機能のリストで、**ChemStation ChemMain** を検索し、3 つすべてのネットワークタイプのチェックボックスをオンにします。
- 9 変更を確認します。
- 10 ChemMainAcq.exe の手順を繰り返します。

¹ すべての項目の一覧を見るには、アイコン表示に切り替えてください。

ウイルス対策プログラムの設定

『OpenLab CDS ChemStation Edition 要件ガイド』の「ファイアウォールの設定」に記載されたファイアウォールポートを必ず開いてください。

注記

ウイルス対策プログラムを実行すると、コンピュータの動作とパフォーマンスが影響を受けることがあります。ウイルススキャナによっては、ChemStationと併用すると問題が生じる可能性があります。Symantec Endpoint Protection 14.0 MP2 および Microsoft Security Essentials はテスト済みです。

OpenLab ソフトウェアが正しく機能するには、ウイルス対策ソフトウェアによるリアルタイム保護から、以下のフォルダーを除外する必要があります。これらは、機器が待機状態で、データを測定していない間にスキャンされるようにしてください。除外するフォルダーの設定方法は、使用しているウイルス対策ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

プロセス	ディレクトリ	ファイル名
データ取込	%public%\Documents\ChemStation (またはインストール時に設定した機器データ用の対応するフォルダー)	データ、メソッド、シーケンス、レポートなど
標準レポート	Windows ユーザーの場合 は %temp% (ユーザーの temp ディレクトリ)	~p3d*.tmp ~job*.tmp Hpspl00.que
CDS インテリジェン トレポート	%LOCALAPPDATA% %APPDATA% %PROGRAMDATA%	次のファイル： <ul style="list-style-type: none"> • Agilent • Agilent Technologies • Agilent_Technologies,_Inc • IsolatedStorage • TEMP 例： C:\Users\xxxxx\AppData\Local\Agilent Technologies\Intelligent Reporting\RawDataFileCache

使用するウイルス対策ソフトウェアに、プログラムや実行可能ファイルの実行を禁止する設定がある場合は、次のプログラムファイルの実行禁止を設定していないことを確認してください。これらのプログラムファイルが格納されているフォルダーを見つけるには、Windows の検索機能を使ってください。

- agilentiolibrariesservice.exe
- chemmain.exe
- chemmainacq.exe
- apg_top.exe
- iprocsvr.exe
- iproc8491.exe
- msinsctl.exe
- httpdmsd.exe
- epcsetup.exe

注記

システムの設定によっては、上記のフォルダーやファイルが存在しない場合があります。

4

オプションの手順

追加ソフトウェアとドライバーのインストール 46

指定したフォルダーにインストールファイルをコピーして
インストールする 47

パブリックフォルダーへのショートカットの追加 48

追加ソフトウェアとドライバーのインストール

OpenLab CDS ChemStation Edition には、追加ソフトウェア（ADFExport プラグインや、サードパーティ製の機器用のドライバーなど）をインストールするウィザードが用意されています。このウィザードを開始するには、**[スタート] > [すべてのプログラム] > [Agilent Technologies] > [OpenLab追加ソフトウェアとドライバー]** を選択します。ウィザードの指示に従って、必要なソフトウェアをインストールします。

ネットワークドライブの準備

追加ソフトウェアがネットワークドライブ上に置かれている場合は、ウィザードがそこにアクセスできるようにネットワークドライブを準備する必要があります。この準備を行わなければ、ウィザードの該当ドライブへのアクセスは Windows のセキュリティ機能により拒否されます。

1 ドライブにドライブ文字を割り当てます。

例えば、"`\\¥¥<machine-name>¥OpenLABCDS`" という共有パスを使用して、ドライブに **Z:** を割り当てます。

これにより、ログインしているユーザーに対してドライブの割り当てが行われます。

2 コマンドプロンプトを特権モードで開き（管理者として実行し）、**net use** コマンドでドライブを割り当てます。

例えば、

net use Z:"¥¥<マシン名>¥OpenLABCDS" などと入力します。

これにより、ローカル管理者アカウントに対してドライブの割り当てが行われます。割り当てられたドライブが、ログインユーザーと管理者の両方で表示され、ウィザード内で選択できるようになります。

指定したフォルダーに インストールファイルをコピーして インストールする

この手順が完了すると、ネットワーク共有からインストールを実行できません。

- 1 インストーラの **【プラン】** 画面で、サイドバーメニューから **【インストール】** を選択します。
- 2 **【ネットワーク共有からのインストール準備】** を選択します。
- 3 **【ネットワーク共有】** 画面で、ディレクトリを参照し、以下の手順で出力先フォルダーを作成します。

注記

ドライブのルートディレクトリへのインストールは、操作中に問題を引き起こす可能性があるため、サポートしていません。

- a 3つのドットのあるボタンを選択します。
 - b フォルダーを作成するディレクトリに移動します。
 - c **【新しいフォルダーの作成】** を選択します。
 - d フォルダー名を入力します。
 - e **【OK】** を選択します。システムが **【ネットワーク共有】** 画面に戻り、パスが表示されます。
 - f **【Secure Workstation のインストールメディアを含める】** チェックボックスをオンにします。
 - g **【開始】** を選択します。
- 4 処理が完了したら、ファイルをローカルドライブにコピーするか、ネットワークドライブのロケーションを割り当てます。
 - 5 アプリケーションを閉じて、作成したディレクトリとフォルダーに移動します。フォルダーを開きます。
 - 6 Disk1 フォルダーを選択し、Setup.bat を実行してアプリケーションを起動します。
インストーラの **【プラン】** 画面が表示されます。

パブリックフォルダーへのショートカットの追加

デフォルトでは、マスターメソッド、シーケンステンプレート、レポートテンプレート、生データなどのユーザーデータは、パブリックのドキュメントフォルダー C:\ユーザー¥パブリック¥パブリックのドキュメント ¥ChemStation にあります。このフォルダーはインストール時に定義します。システムは Windows [スタート] メニューの **【機器データ】** から定義されたフォルダーへのショートカットを作成します。

Windows 7 では、パブリックのドキュメントへのショートカットは Windows エクスプローラーにあります。

Windows 10 では、Windows エクスプローラーの構造が異なります。そのフォルダーに容易にアクセスしたい場合は、機器データフォルダーを [スタート] メニューにピン留めすることをお勧めします。

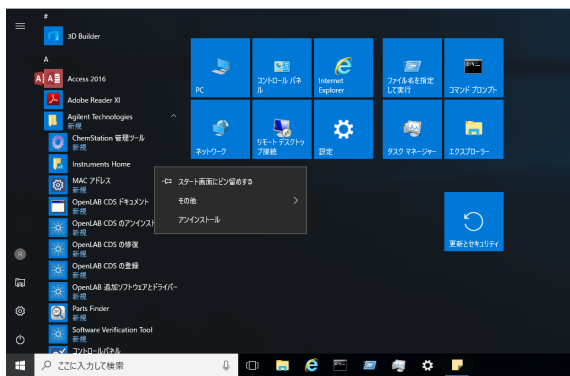


図3 Windows 10 の Windows [スタート] メニュー

- 1 [スタート] メニューの **【機器データ】** ショートカットへ移動します。
- 2 アイコンを右クリックし、**【スタートにピン留めする】** を選択します。

5 セキュアファイル I/O

セキュアファイル I/O について	50
Windows でのセキュアファイル I/O の準備	51
ChemStation でセキュアファイル I/O を有効にする	52
ChemStation ユーザーの権限の確認	54
セキュアファイル I/O 操作時の重要事項	55
制限事項	56

この章では、セキュアファイル I/O を用いて ChemStation フォルダを保護する方法を説明します。

セキュアファイル I/O について

検証済みのマスターメソッドやシーケンステンプレートなどの ChemStation メタデータは、Content Management システム内の保護された場所に保存する必要があります。機器で使用するメソッドやシーケンステンプレートはローカルフォルダーにも保存されています。デフォルトでは、これらのフォルダーのコンテンツはローカルファイルブラウザや ChemStation 内のファイルダイアログからの変更または削除から保護されています。

データの完全性を確保するには、ChemStation のセキュアファイル I/O 機能を有効にします。これにより、該当するすべてのローカルパスが保護されます。該当するパスはデフォルトで決められていますが、設定することもできます。保護されたパスのコンテンツは Windows のファイル操作によって変更できなくなります。これは、Windows ユーザーグループ**対話型**のメンバーはアクセスが拒否されるためです。¹保護されたフォルダーは ChemStation 内でのみ使用できます。ユーザー認証が有効になっている場合、十分な権限を持つユーザーのみ、ローカルで保存されたデータを整理の目的で削除できます。これらのメソッドやシーケンスが機器でアクティブに使用されている場合、結果やそれらに関連付けられた監査証跡と併せてコピーも保存されます。

¹ Windows では、対話形式でログオンするすべてのユーザーは自動的に**対話型**グループに割り当てられます。このメンバーシップは、ユーザーがログオンしている間維持されます。

Windows でのセキュアファイル I/O の準備

- 1 該当するすべての ChemStation フォルダが NTFS ファイル システム 上にあるようにしてください。
- 2 ChemStation フォルダをリムーバブル記憶装置で使用しないでください (外部ディスクや USB メディアなど)。
- 3 標準の ChemStation ユーザーと同じ、またはそれより権限を持たない ユーザーアカウント (ローカルまたはドメイン) を作成します。管理 ユーザーやパワーユーザーの権限を付与しないでください。このユーザーがどのグループのメンバーでもないこと、特に **Interactive** グループのメンバーでないことを確認してください。

このアカウントは ChemStation の内部ファイル操作のために使用されます。このユーザーは対話形式でログオンすることはできないため、

【次回ログオン時にパスワードの変更が必要】 オプションは使用しないでください。

注記

[パスワードを無期限にする] オプションをオンにしてください。セキュリティポリシーによってこの設定ができない場合、パスワード更新中に ChemStation を使用しないでください。

このユーザーアカウントのパスワードが有効期限切れになっている間は ChemStation を使用しないでください。ChemStation 管理ツールでパスワードを更新するまで、ChemStation は正しく動作しません。

ChemStation でセキュアファイル I/O を有効にする

- 1 **【スタート】 > 【すべてのプログラム】 > 【Agilent Technologies】 > 【ChemStation 管理ツール】** をクリックして、ChemStation 管理ツールを開きます。
- 2 ChemStation 管理ツールの **【セキュアファイル IO を有効】** チェックボックスをオンにします。
- 3 この特別なユーザーアカウントの資格情報を入力します。
- 4 **【適用】** をクリックします。
- 5 保護されるすべてのディレクトリがダイアログに一覧表示されます。**【OK】** をクリックして確定します。

保護されたすべてのパスに対して、ProtectionInfo.xml ファイルがルートフォルダーに保存されます。この保護情報ファイルには、タイムスタンプ、および保護を有効にした Windows ユーザーが含まれます。このユーザーは、ChemStation 管理ツールからパスを有効にしたユーザーか、新しい機器をコンフィグレーションしたユーザーです。

保護情報ファイルによって、最後にアクティブ化が実行されたときの所定のフォルダーに対する証明が得られます。その日付より前の期間は指定されていません。ファイルには、最後に保護を有効にした日時とユーザーが含まれることから、フォルダーの連続的な保護ステータスを証明するためにこのファイルを使用できます。

セキュアファイル I/O の有効化または無効化は、OpenLab Control Panel のアクティビティログや Windows イベントログ（アプリケーションまたはセキュリティ）に記録されません。

フォルダーの保護を解除すると、ProtectionInfo.xml ファイルが削除されます。このファイルを削除すると、フォルダーは保護されません。

- 6 管理タスクで、特定のフォルダーの保護を一時的に無効にできます。
 - a すべての ChemStation セッションをシャットダウンします。
 - b ChemStation 管理ツールの **【セキュアファイルシステムの管理】** をクリックします。
 - c ディレクトリのリストで該当するパスを検索し、**【アンプロテクト】** をクリックします。

保護情報ファイルが削除され、保護状態の中断が記録されます。

- d タスクが終了したら、**【すべてプロテクト】** をクリックして、該当するすべてのフォルダーの保護を再度設定します。

新しい保護情報ファイルが作成されます。

- e ChemStation を再度起動します。

ChemStation はすべてのフォルダーが保護されている場合のみ起動します。

ChemStation ユーザーの権限の確認

OpenLab Control Panel で、特定の権限を設定できます。いくつかの権限はセキュアファイル I/O に関連したものです。これらの権限によって、保護されていない場所（セキュアフォルダー以外）からデータ、メソッド、またはシーケンスを読み込む必要がある状況に対処します。これらの権限は、現在のワークフローを維持するためにデフォルト ChemStation ロールで有効になっています。

データの完全性を確保するため、セキュアファイル I/O を有効にする場合はこれらの権限をオフにすることをお勧めします。

該当する権限は以下のとおりです。

- **ChemStation: [データ] >**
[設定されていないパスからのデータ読込]
保護されていないパスからデータを読み込む場合や、空白でないデータパスを ChemStation へ追加する場合に必要。
- **ChemStation: [メソッド] >**
[設定されていないパスからのメソッド読込]
保護されていないパスからメソッドを読み込む場合や、保護されていないパスへメソッドを保存する、またはメソッドパスを ChemStation へ追加する場合に必要（プレファレンスダイアログ）。
- **ChemStation: [シーケンス] >**
[設定されていないパスからのシーケンステンプレート読込]
保護されていないパスからシーケンステンプレートを読み込む場合や、保護されていないパスへシーケンステンプレートを保存する場合、あるいはパスを ChemStation へ追加する場合に必要（プレファレンスダイアログ）。

セキュアファイル I/O 操作時の重要事項

セキュアファイル I/O を使用して ChemStation フォルダを保護する場合：

- 保護されたフォルダを共有しないでください。フォルダを共有すると保護が解除されます。
データがパブリックのドキュメントフォルダ内にある場合（デフォルト設定）、パブリック共有をオンにしないでください。
- ChemStation 管理ツールで設定されたユーザーアカウントで、対話形式でログインしないでください。
このユーザーが対話形式でログインした場合、このユーザーが再度ログアウトするまで、変更したデータを ChemStation に保存できなくなります。
- このユーザーアカウントのパスワードが有効期限切れになっている場合、ChemStation 管理ツールでパスワードを更新するまで ChemStation を使用しないでください。パスワードが有効期限切れになっている間は ChemStation が正しく動作しません。

制限事項

セキュアファイル I/O を有効にすると、以下の機能はサポートされません。

- eMethods のインポート/エクスポート
- 新しい結果セットへの非コンテナデータの移行
- Content management ウェブインターフェイスを使用したファイル（メソッド、シーケンス、データ）のダウンロードや、保護されたフォルダーへの保存
これらのファイルは ChemStation アプリケーション内でダウンロードする必要があります。
- GC バックフラッシュウィザード
- G2887BA SIMDIS
- M8350AA MatchCompare
- M8370AA OpenLab Data Analysis アドオン
- Easy SamplePrep
- G7818A Cirrus GPC ソフトウェア
- A2Prep ソフトウェア
- Method Scouting Wizard
- G4218A 蒸発光散乱検出器

6

Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition のライセンス

OpenLab ライセンスについて	58
ライセンスタイプ	58
ライセンスファイル	58
ソフトウェアライセンスの取得	60
ソフトウェアライセンスの作成およびダウンロード	61
ライセンスを入手するためのその他の方法	63

この章では、Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition のライセンスについて説明します。

OpenLab ライセンスについて

ライセンスタイプ

ライセンスファイルは、製品、機器およびアドオンライセンス（またはアクティベーションキー）のコレクションであり、OpenLab CDS システムにインストールされます。

ライセンスファイル内のライセンスまたはアクティベーションキーは、共有またはカウントのいずれかになります。

- 共有ライセンス – システムコンピューターおよびその他のコンポーネントでは、共有、またはアドオンライセンスを使用できます。これは、コアライセンスを共有しているためです。
- カウントライセンス – このライセンスは、Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition のフローティングライセンス方針の一部であり、どのコンポーネントにも恒久的に割り当てられるものではありませんその代わりに、AIC および機器などのコンポーネントが起動している間、これらに自動的に割り当てられます。このライセンスは、コンポーネントを切断したときに自動的に返却されます。ライセンス管理プログラムでは、ライセンスの発行や取得を管理します。

この場合は、コンポーネントが実行中の場合のみライセンスが使用されます。インストールする各コンポーネントにではなく、同時に実行するすべてのコンポーネントに十分な数だけのライセンスを購入すればよいことになります。

システムのスタートアップライセンスでは、インストール後 60 日間 OpenLab CDS を実行できます。60 日の期間以降にデータシステムソフトウェアを実行するためには、ファイナルライセンスファイルをインストールする必要があります。

ライセンスファイル

ライセンスファイルには、お客様のソフトウェアライセンスが含まれています。このファイルはワークステーションにインストールされます。ライセンスファイルはこのコンピューターに固定されており、SubscribeNet でライセンスを再作成しないと別のワークステーションに移動することはできません。

ライセンスファイルの情報は、お使いのシステムで同時に使用可能な機器およびその他のオプションの数が定義されます。

ライセンスを維持管理する最も効率的な方法は、インターネットを使用することです。

ソフトウェアライセンスの取得

ライセンスを維持管理する最も効率的な方法は、SubscribeNet を使用することです。

Flexera ライセンス マネージャー

Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition では、Flexera 製の FlexNet Producer Suite というサードパーティツールを使ってライセンスを管理しています。ライセンスサーバーの必須コンポーネントは、デフォルトで Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition にインストールされます。

OpenLab Shared Services のライセンスを管理するには、追加の Windows サービスを実行する必要があります。この Windows サービス名は、Agilent OpenLab License Server です。このサービスは、Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition 上で実行しなければなりません。

インターネットに接続できない場合は、「[ライセンスを入手するためのその他の方法](#)」63ページを参照してください。薄紫色の封筒には、Software Entitlement Certificate（ソフトウェアライセンス証明書）が入っています。この証明書で、次の情報を確認してください。

- Authorization code（認証コード）
- SubscribeNet の URL

薄紫色の封筒を受け取っていない場合は、販売店またはサポート担当者にお問い合わせください。

ソフトウェアライセンスの作成およびダウンロード

以下の手順を使用して、ライセンスを作成およびダウンロードしてください。インターネットにアクセスできない場合は、「**ライセンスを入手するためのその他の方法**」63 ページのセクションを参照してください。

SubscribeNet にまだ登録していないユーザーの場合は、**「新規ユーザー」**セクションから行ってください。

SubscribeNet に登録済みの場合は、**「SubscribeNet で登録済みのユーザー」**セクションを参照してください。

必須要件

製品用のファイナルライセンスの作成、ダウンロードおよびインストールを行うには、以下が必要です。

- Software Entitlement Certificate が入った薄紫色の封筒で提供される認証コードラベル。
製品用に薄紫色の封筒を受け取っていない場合、販売店または弊社のサポート窓口にお問い合わせください。
- Software Entitlement Certificate に記載されている SubscribeNet の URL。
- コントロールパネルがインストールされているコンピューターのホスト名。
- MAC アドレス。

Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition がインストール済みのコンピューターから MAC アドレスを取得するには、コントロールパネルを開き、**【管理】 > 【ライセンス】** セクションを参照してください。

【MAC アドレスのコピー】 または **【MAC アドレスの保存】** から、ライセンス作成のための MAC アドレスを入手します。

作業中に、ライセンスサーバーの MAC アドレスを入力する必要があります。ワークステーションの場合は、ローカルコンピューターの MAC アドレスです。クライアント/サーバーシステムの場合は、サーバーの MAC アドレスになります。

注記

ライセンスをインストールした後でコンピューター名またはドメインリファレンスに変更された場合、ライセンスを削除してください。新しいライセンスを SubscribeNet で作成し、ダウンロード、およびインストールする必要があります。

注記

ライセンス作成時に使用した MAC アドレスを持つネットワークアダプタがマシンから外されると、お使いのライセンスは有効ではなくなります。新しいライセンスは、ライセンスサーバー上で現在利用可能な MAC アドレスを使用して作成する必要があります。

新規ユーザー

- 1 <https://agilent.subscribenet.com/control/agil/AgilRegisterToAccount> にアクセスして、SubscribeNet で製品を登録してください。
- 2 登録ページでは、[Authorization Code] と [Profile Information] を入力します（必須入力のフィールドにはアスタリスク (*) の印が付いています）。
ここで入力する電子メールアドレスが、ログイン ID になります。
- 3 **[Submit]** をクリックします。アカウント名が作成されると、それが表示されます。
SubscribeNet からお客様に、ログイン ID とパスワードが記載された、ようこそ電子メールが送信されます。
- 4 ログイン ID とパスワードで SubscribeNet にログインします。
ログインすると、オンラインのユーザーマニュアルリンクを使用して、質問などに対するヘルプにアクセスすることができます。
- 5 左側のナビゲーションバーから、**[Generate or View licenses]** を選択します。
- 6 新規にライセンスを作成するメッセージが表示されたらそれに従います。
コンピューターの HOST NAME (ホスト名) を入力するよう要求されます。入力するホスト名は、コントロールパネルが実行されているコンピューターのネットワーク名と同一にしてください。入力するホスト名には、DNS サフィックス (**domain.com**) リファレンスを含めないでください。
- 7 ライセンスが作成されたら、詳細を表示して、**[Download License File]** をクリックします。お使いのコンピュータおよびバックアップロケーション（ポータブル記憶装置など）にライセンスファイルを保存します。
ライセンスファイルの再作成や、新規承認コードの追加、またはシステムへのライセンス追加作成のために、Agilent SubscribeNet サイトを再び訪れる際に、ログイン ID とパスワードを使用します。

SubscribeNet で登録済みのユーザー

- 1 SubscribeNet アカウントがすでにある場合は、<https://agilent.subscribenet.com/> を使用します。

SubscribeNet パスワードが不明な場合は

<https://agilent.subscribenet.com/control/agil/password> で再発行手続きを行ってください。

- 2 複数のアカウントがある場合は、Authorization Code（認証コード）に関連している SubscriberNet アカウントを選択します。
- 3 SubscribeNet のナビゲーションウィンドウから、**[Register Authorization Code]** を選択します。
このようにして、新しい Authorization Code を入力し、新しいライセンスを使用できるようにします。
- 4 この前に記載されている手順（「新規ユーザー」）のステップ5から7に従い、新しいライセンスの**作成または表示**を行います。

ライセンスを入手するためのその他の方法

ライセンスを作成できない場合、お近くの Agilent サポートオフィスにお問い合わせください。担当者が OpenLab CDS ライセンス申請書を送信する方法をお伝えします。

オフラインライセンス

お客様のラボでインターネット接続が利用できない場合：

お客様自身またはローカルオンサイトサービスエンジニアが必要な情報を収集し、Agilent がお客様のためにライセンスアカウントを作成できるようになります。電話でのサポートについては、販売・サービスの電話番号までお問い合わせください。連絡先情報については、「付録」を参照してください。

Agilent ライセンスサポートに必要な顧客情報：

お客様の代理でライセンスアカウントを作成する場合は、次の情報を Agilent に提出する必要があります。

1 アカウント情報：

アカウント名は、カンマで区切った会社名と実験室名になります。ここで提供される社員情報は、必要に応じて、システムへの今後のアクセスのために、お客様のアカウントの最初の管理者を指定するために使用されます。迅速なサービスをご提供できるよう、Agilent 販売・サービスセンターにご連絡いただく前に、次の情報を用意してください。

- 会社名
- 実験室/部門名
- 名
- 姓
- 電子メールアドレス
- 役職名
- 電話番号
- 国名、都道府県名を含めた住所

2 Authorization Code:

Authorization Code は、薄紫色の封筒に入っているラベルに記載された英数字のコードです。複数のコードを受け取られた場合は、ご注文いただいたライセンスをすべてお客様のアカウントに付与できるよう、すべてのコードをご提示ください。

3 ライセンスの取得：

上記の情報をご提供いただいた後、Agilent はお客様の代理で SubscriberNet 経由でライセンスを生成します。ライセンスファイルは、発送先アドレスに送付されるか（CD で）、または FSE が直接お届けします（通常は USB メディアを使用）。ライセンスを受け取ったら、次のセクション「ライセンスのインストール」に従って CDS システムでライセンスのインストールを行ってください。

7

Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition の設定

初回ログイン 66

コントロールパネルへの ライセンスファイルの追加 67

ユーザーの追加 68

ロールへのユーザーの追加 69

この章では、Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition のコンフィグレーションについて説明します。


初回ログイン

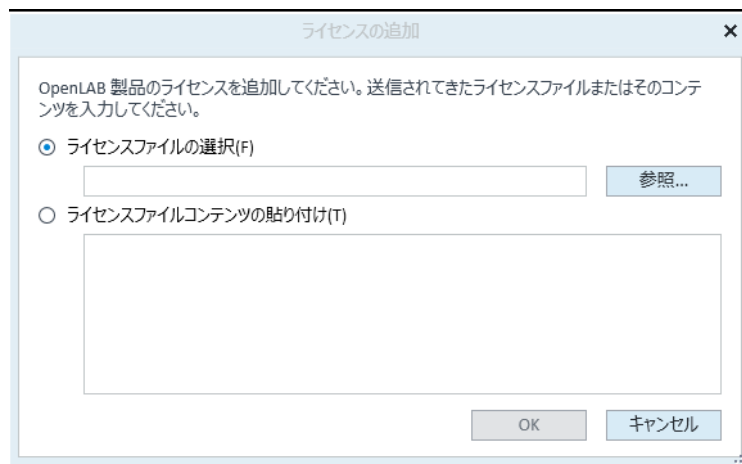
インストール中、内部認証が自動的に設定され、デフォルトユーザー 'admin' がパスワード 'openlab' で作成されます。セキュリティと法規制上の理由から、その他の作業に進む前にパスワードを変更してください。

- 1 デスクトップの **【コントロールパネル】** ショートカットをダブルクリックするか、**【スタート】** > **【すべてのプログラム】** > **【Agilent Technologies】** > **【OpenLab】** > **【コントロールパネル】** の順に選択します。
- 2 OpenLab Control Panel のログイン情報を入力します。
 - a **【ログイン】** フィールドに、ユーザー名「admin」を入力します。
 - b **【パスワード】** フィールドに、パスワード「openlab」を入力します。
- 3 **【管理】** ビューで、**【ユーザー情報】** を選択します。
- 4 リボンの **【パスワードの変更】** をクリックします。
- 5 パスワードポリシーに対応した新しいパスワードを入力し、設定を確認します。

コントロールパネルへの ライセンスファイルの追加

ライセンスはコントロールパネルを使用してシステムに追加する必要があります。

- 1 デスクトップの **【コントロールパネル】** ショートカットをダブルクリックするか、**【スタート】 > 【すべてのプログラム】 > 【Agilent Technologies】 > 【OpenLab Shared Services】 > 【コントロールパネル】** の順に選択します。
- 2 **【管理】 > 【ライセンス】** の順に選択します。
- 3 リボン内の **【ライセンスの追加】**  をクリックします。



- 4 次のようにライセンスのインストールを選択します。
 - ・ **【ライセンスファイルの選択】** オプションを使用して、SubscribeNet のライセンス作成プロセスで保存したライセンスファイル (.lic) を参照して開きます。
 - ・ **【ライセンスファイルコンテンツの貼り付け】** オプションを選択し、受信したテキストファイルのライセンステキストを、所定のフィールドにコピーします。
- 5 **【OK】** をクリックします。
コントロールパネルの **【管理】** インターフェイスでは、インストールしたライセンスのステータスが表示されます。

ユーザーの追加

- 1 ナビゲーションペインで **【管理】** > **【ユーザー】** の順に選択します。
- 2 ユーザーツールバーの **【作成】** を選択します。
- 3 **【ユーザーの作成】** ダイアログボックスで、**【名前】** と **【説明】** にユーザーの名前と説明を入力します。
- 4 **【一般】** タブを選択して、ユーザーのパスワードを入力します。パスワードを確認します。
- 5 **【セキュリティポリシー】** で、パスワードの最小文字数を 5 文字に設定します。
- 6 パスワードの有効期限を 180 日に設定します。
- 7 ログインの試行回数を 3 回に制限します。
- 8 必要に応じて、ユーザーのフルネーム、電子メールアドレス、連絡先情報を入力します。フルネームは、アクティビティログのエントリおよびコントロールパネルの右下のウェルカムメッセージで使用されます。
- 9 パスワードのオプションを選択します。
 - ここで割り当てられたパスワードをユーザーが変更できないようにするには、**【ユーザーはパスワードを変更できない】** を有効にします。
 - ユーザーが次回ログオンするときに新しいパスワードを作成するよう要求するには、**【ユーザーは次回ログオン時にパスワードの変更が必要】** を有効にします。
 - ユーザーがここで割り当てられたパスワードを使用し、いつでも変更できるようにするには、**【ユーザーはパスワードを変更できない】** と **【ユーザーは次回ログオン時にパスワードの変更が必要】** の両方を無効にします。
- 10 ユーザープロファイルを作成するけれども、そのユーザーがコントロールパネルにログオンできないようにするには、**【アカウントを無効にする】** を有効にします。
- 11 **【OK】** を選択します。

ロールへのユーザーの追加

- 1 ナビゲーションペインで **【管理】** > **【ロール】** の順に選択します。
- 2 **【ロール】** ウィンドウで、ユーザーに割り当てるロールを選択します。
- 3 ロールツールバーの **【編集】** を選択します。
- 4 **【ロール編集】** ダイアログボックスで、**【メンバー】** タブを選択します。
- 5 **【ユーザーまたはグループの追加】** を選択します。
- 6 **【ユーザーおよびグループの検索】** ダイアログボックスで **【検索】** を選択して、すべてのユーザーとグループのリストを表示します。
- 7 **【検索結果】** でユーザーまたはグループを選択して、**【追加】** を選択します。
- 8 **【OK】** を選択します。

8 Secure Workstation のアップグレード

アップグレードの計画	71
クラシック機器ドライバーの RC.NET への更新	73
アップグレードの準備	76
ライセンスアップグレード	78
アップグレード済みライセンスファイルの取得	78
システムへのアップグレード済みライセンスファイルの追加	80
Secure Workstation のアップグレード	81

この章では、Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition のアップグレードについて説明します。

アップグレードの計画

アップグレードウィザードを使用したアップグレードは ChemStation C.01.07 SR3 以降でサポートされています。古い ChemStation リビジョンは、まず最初に C.01.07 SR3 にアップグレードしてください。C.01.07 SR3 または SR4 へのアップグレードの詳細については、C.01.07 SR3 インストールガイドを参照してください。

C.01.10 は **Windows 7 SP1 64 ビット** または **Windows 10** でサポートされています。既存の ChemStation ワークステーションでの Windows 7 または 8.1 から Windows 10 へのインプレースでのアップグレードはサポートされていません。Secure Workstation をアップグレードする前に、Windows コンフィグレーションがすべての要件を満たしていることを確認してください。「[「オペレーティングシステムの設定」 22 ページ](#)」を参照してください。

古いデータベースを新規インストールにリストアする方法は、『Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition メンテナンスガイド』(CDS_CS-SecureWS_maintenance.pdf) の障害復旧手順を参照してください。

クラシック機器ドライバーは、MSD 機器ドライバーを除いてサポートされません。アップグレードする前に、対応する機器メソッドを RC.Net ドライバーメソッドに変換することをお勧めします（[「クラシック機器ドライバーの RC.NET への更新」 73 ページ](#)を参照）。

注記

C.01.08 以降、M8370AA OpenLab CDS Data Analysis アドオンは ChemStation との組み合わせをサポートしていません。

また C.01.08 以降、OpenLab CDS ChemStation Edition は、Agilent 5890 GC 機器をコントロールできません。

これらを使用している場合は、C.01.10 にアップグレードしないでください。代わりにリビジョン C.01.07 SR3 または SR4 を使用してください。

お使いのシステムが G7102A、G4261A/B、または G4260A/B の ELSD ドライバーを使用している場合、現在の ELSD リリースノートに示されているアップグレード方法を参照してください。ChemStation C.01.10 のリリースの現在のバージョンは Documentation and Learning プラットフォームから入手できます。

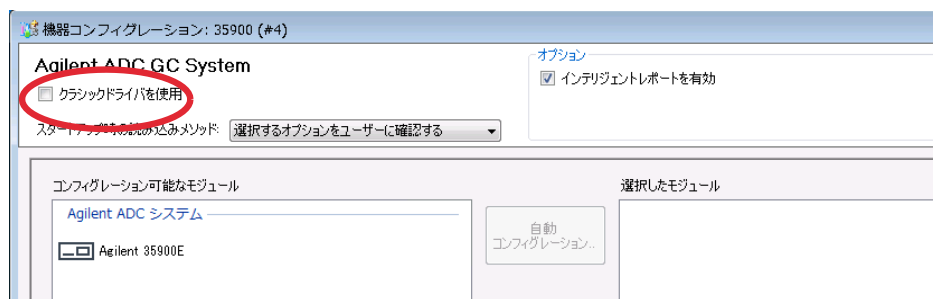
ADF Export に関連する機能は、ChemStation リビジョン C.01.10 以降でアドオンとして使用可能です。最新バージョンを使用するには、ADFExport アドオンを別途インストールしてください（「追加ソフトウェアとドライバーのインストール」 46 ページを参照）。

クラシック機器ドライバーの RC.NET への更新

C.01.10 では、RC.NET ドライバーのみ使用可能です（MSD 機器ドライバーを除きます）。クラシックドライバーを使用している機器は、RC.net ドライバーを使用するよう再コンフィグレーションする必要があります。C.01.10 へアップグレードする前に行うことを推奨します。

どの機器がクラシックドライバーを使用しているかを確認するには、OpenLab Control Panel へ移動し、機器を選択します。リボンから **【機器コンフィグレーション】** を選択します。 **【クラシックドライバーを使用】** チェックボックスがオンになっている場合、その機器はクラシックドライバーを使用しています。以下の手順を実行して、RC.NET を使用するよう機器を再コンフィグレーションします。

- 1 各クラシックドライバー機器の IP アドレスを記録してください。
- 2 メソッドとデータのバックアップが他のロケーションに保存されていることを確認してください。
- 3 念のために、クラシックドライバーのメソッド設定を印刷するか、メソッドリストをディスクに保存します。
- 4 機器を再コンフィグレーションするには、 **【OpenLab Control Panel】** 内の機器を選択してください。
- 5 リボンの **【機器コンフィグレーション】** をクリックします。
- 6 コンフィグレーションダイアログの **【クラシックドライバを使用】** チェックボックスをオフにします。



機器は、 **【選択したモジュール】** パネルから **【コンフィグレーション可能なモジュール】** パネルに移行します。

- 7 **【コンフィグレーション可能なモジュール】** パネルで機器を選択し、矢印をクリックして **【選択したモジュール】** パネルに再度機器を追加します。

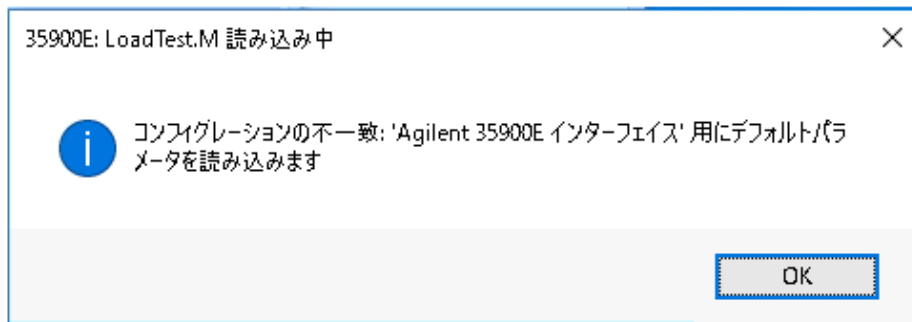
注記

- 現在の RC.NET ドライバーがまだ利用できない場合は、OpenLab CDS ChemStation をアップグレードする前にマニュアルでインストールする必要があります。
 - たとえば、35900E ADC RC.NET ドライバーは、以下の手順でインストールしてください。
 - a インストーラを実行します。
 - b インストールに進み、OpenLab 追加ソフトウェアとドライバーを開いてください。
 - c アドオンソフトウェアを指定するように要求されたら、インストールメディアの Disk3、Agilent 35900E RCNet フォルダを参照して、Agilent OpenLab CDS ChemStation 35900 AtoD Drivers.msi ファイルを選択してください。該当するソフトウェアがインストーラにリストされます。
 - d リストにあるソフトウェアを選択して、インストールを続行します。インストールが自動的に行われ、完了します。
- 8 **【選択したモジュール】** にある機器をダブルクリックして、記録してある IP アドレスを設定してください。 **【シリアル番号とファームウェアを取得】** をクリックして、対応するエントリを取得してください。

図 4 35900 コンフィグレーションの例

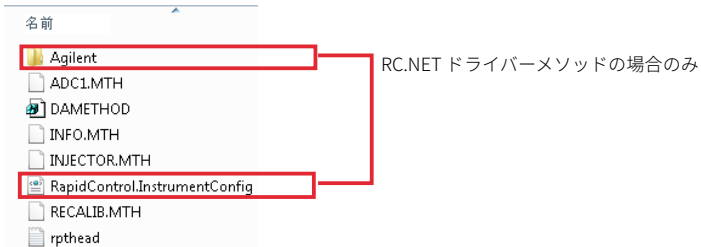
- 9 新たにコンフィグレーションした機器を起動します。

- 10 メソッドを RC.NET ドライバーに変換するには、メソッドを読み込んでください。以下のようなダイアログが開いたら、**[OK]** をクリックします。



メソッドをレビューし、更新が必要なければ、メソッドを保存するときに「RC.NET へ更新済み」などのコメントを追加します。

メソッドは読み込まれるときに RC.NET に変換されます。変換されたメソッドはディスクへ保存された後、Agilent フォルダーと RapidControl.InstrumentConfig ファイルが追加されます。



アップグレードの準備

- 1 メンテナンスガイド (SecureWS_maintenance.pdf) に記載されている手順に従って、システムのバックアップを実行します。
- 2 インストールされていない場合：.Net Framework 4.7.2 をインストールします（「.NET 4.7 のインストール」 16 ページを参照）。
- 3 Windows Update の無効化
 - a **【コントロールパネル】** > **【WindowsUpdate】** の順に選択します。
 - b **【設定の変更】** をクリックします。**【重要な更新プログラム】** セクションで **【更新プログラムを確認しない】** を選択します。他のオプションの選択をすべて解除します。

注記

この設定は、アップグレードの処理中にシステムの再起動を回避するために重要です。

- 4 PostgreSQL データベースで定義されたロケールがオペレーティングシステムで定義されたロケールと一致していることを確認します。

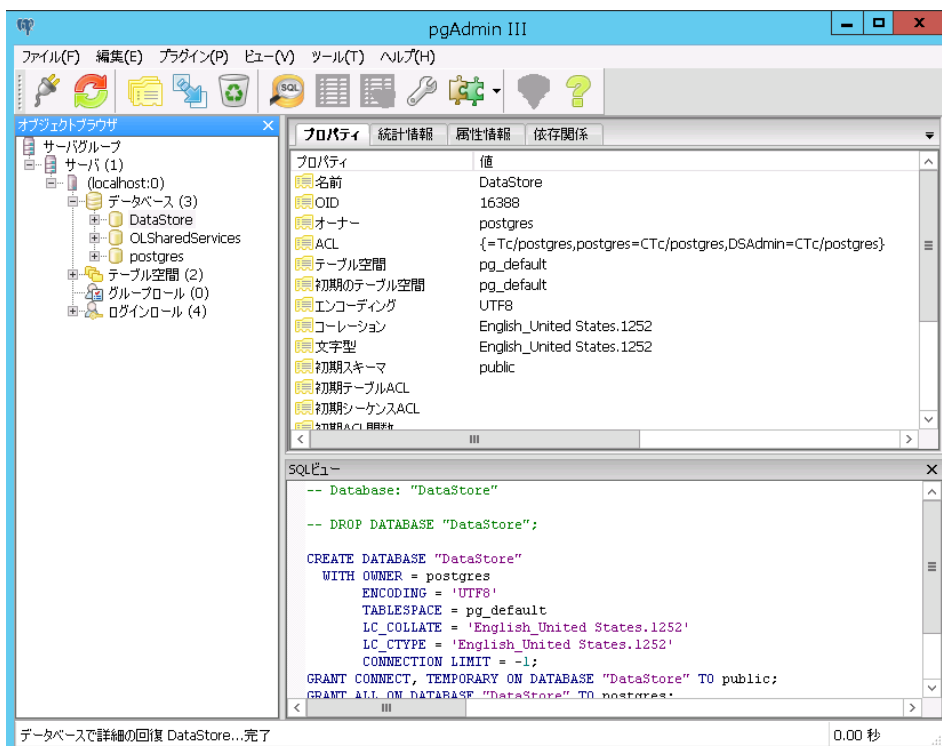
注記

この手順を実行するには、元のインストールで設定した **postgres** ユーザーのパスワードが必要です。このパスワードはお客様にて管理されているものです。

postgres ユーザーのパスワードが不明の場合は、Agilent のサポート担当者にご連絡ください。

- a PostgreSQL の管理ツール (pgAdmin) を開きます。
【スタート】 > **【Postgres 9.x】** > **【pgAdminIII】**
- b **【Postgres SQL 9.x】** を右クリックし、**【接続】** を選択して、postgres ユーザーのパスワードを入力します。

- c **[+]** をクリックしてデータベースリストを展開します。



- d データベースのいずれか1つをクリックします。【プロパティ】タブの【コーレーション】および【文字型】の言語の値をメモします。
- e Windows の設定【スタート】>【コントロールパネル】>【地域と言語】>【形式】を開き、データベースで定義されている言語と比較します。
- f コンピュータを再起動します。

注記

【ChemStation 管理ツール】の設定を確認します。アップグレードした後、元の設定と同じであるか確認してください。

ライセンスアップグレード

アップグレード済みライセンスファイルの取得

Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition の次のバージョンへアップグレードする前に、SubscribeNet でライセンスをアップグレードする必要があります。コアソフトウェアをアップグレードする前にワークステーションのライセンスをアップグレードすることを強くお勧めします。新しいライセンスなしでスタンドアロンワークステーションを新しいバージョンのコアソフトウェアにアップグレードした場合、そのワークステーションは、OpenLab Control Panel に新しいワークステーションライセンスが追加されるまでは機能しません。

SMA を契約している場合は、次の手順でライセンスをアップグレードできます。

- 1 以下のプロセスで、Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition がインストールされているワークステーションのホスト名または MAC アドレスを SubscribeNet に入力するよう要求されます。

ホスト名および MAC アドレスを取得するには、コントロールパネルを開き、**【管理】 > 【ライセンス】** セクションへ移動します。ホスト名を記録し、**【MAC アドレスのコピー】** または **【MAC アドレスの保存】** 機能を使用して MAC アドレスを取得します。

- 2 Agilent Electronic Software and License Delivery (<https://agilent.subscribenet.com/>) にログインします。

- 3 **[Manage License by Host]** に移動します。 **[Host ID]** フィールドで、事前に確認した MAC アドレスを入力し、 **[Search]** をクリックします。

Software	Electronic Software and License Delivery
Product List	Manage Licenses by Host
Product Search	Manage Licenses by Host provides a convenient way to upgrade or return all licenses for a license server. For nodelocked license Hosts, licenses can only be returned as upgrades do not apply.
Entitlements	Please select a host by entering the Host ID or Host Name in its search field, or select a host from the pull-down list. You can use * as a wildcard value.
Licenses	
Register Authorization Code	Host ID <input type="text"/> What is my Host ID?
Generate or View Licenses	Host Name <input type="text"/>
View Licenses by Host	<input type="button" value="Search"/>
Manage Licenses by Host	
Administration	
Account Members	
Change Password	

該当するホスト名が表示されない場合、複数の SubscribeNet アカウントでライセンスを管理している可能性があります。これらのアカウントにログインして、ワークステーションライセンスをアップグレードする必要があります。

- 4 ライセンスをアップグレードする資格がある場合、 **[Upgrade All]** ボタンが表示されます。これが表示されないときは、Agilent の営業担当者にご連絡いただき、ソフトウェアメンテナンス契約（「営業およびサポートのお問い合わせ先」 92 ページを参照）を更新する必要があります。アップグレードライセンスを作成するときは、 **[Generate]** ボタンをクリックしてください。
- 5 **Upgrade All Licenses for License Host** ページで、データを見直し、 **[Upgrade All]** をクリックして確定します。



これによりライセンスファイルが最新バージョンにアップグレードされます。SubscribeNet からお客様に、新しいライセンスファイルの添付された電子メールが送信されます。

- 6 システムに新しいライセンスファイルを追加します（「システムへのアップグレード済みライセンスファイルの追加」 80 ページを参照）。複数のスタンドアロンワークステーションを使用している場合、各ワークステーションでこの手順を繰り返します。

各ワークステーションの MAC アドレスがファイル名であることにご注意ください。これはワークステーションのコントロールパネルでインポートするライセンスファイルを正しく特定できるようにするためです。

システムへのアップグレード済み ライセンスファイルの追加

追加の機器コントロールやクライアントライセンスなど、新しいオプションをご購入いただき、SubscribeNet でライセンスを再作成した場合には、アップグレードライセンスファイルをシステムに再適用する必要があります。

- 1 ライセンスをインストールしたいシステムに接続されているマシンから、コントロールパネルを起動します。
- 2 **【管理】 > 【ライセンス】** の順に選択します。
- 3 リボン内の **【ライセンスの削除】**  をクリックします。
- 4 リボン内の **【ライセンスの追加】**  をクリックします。
- 5 SubscribeNet のライセンス作成プロセスで保存したライセンスファイルを参照して開きます。
- 6 以下の Windows サービスを再起動します。
 - **Agilent OpenLab License Server**
 - **Agilent OpenLab Licensing Support**

Secure Workstation のアップグレード

必須要件

Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition リビジョン C.01.07 SR3 以降を使用している。

古いバージョン は最初に C.01.07 SR3 にアップグレードする必要があります。複数のアップグレード手順が必要な場合があります。

- 1 セキュアファイル I/O でフォルダーを保護している場合：アップグレード中はセキュアファイル I/O を無効にします。
 - a すべての ChemStation セッションをシャットダウンします。
 - b **【スタート】** > **【すべてのプログラム】** > **【Agilent Technologies】** > **【ChemStation 管理ツール】** をクリックして、ChemStation 管理ツールを開きます。
 - c ChemStation 管理ツールの **【セキュアファイル IO を有効】** チェックボックスをオフにします。
- 2 現在のバージョンのインストールに使用したのと同じメディアタイプ（USB やネットワーク共有など）からインストーラを実行します。
- 3 インストーラの **【プラン】** 画面から、**【インストール】** 画面に切り替えます。
- 4 **【Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition】** を選択します。

Secure Workstation がすでにインストールされているため、アップグレードウィザードが自動的に開きます。
- 5 ワークステーションライセンスをアップグレードする必要があります。「**アップグレード済みライセンスファイルの取得**」78 ページを参照してください。

ライセンスがアップグレード済みであることを確認してから、**【次へ】** をクリックして先に進みます。
- 6 **【規約に同意します】** を選択します。この条件に同意しないとアップグレードを開始できません。**【次へ】** をクリックします。
- 7 **【OpenLab Shared Services 設定】** 画面で、システム管理者権限を持つユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。**【次へ】** をクリックします。

- 8 アップグレードウィザードの **【サマリ】** 画面に、アップグレード対象のコンポーネントのリストが表示されます。 **【開始】** をクリックして、アップグレードを進めます。
アップグレード中にエラーが発生した場合、エラーメッセージが表示されます。
- 9 アップグレードした後、**ChemStation 管理ツール**の設定がアップグレード前の元のシステムの設定と一致していることを確認してください。
- 10 アップグレード完了後に、再度セキュアファイル I/O を有効にします。
 - a **【スタート】** > **【すべてのプログラム】** > **【Agilent Technologies】** > **【ChemStation 管理ツール】** をクリックして、ChemStation 管理ツールを開きます。
 - b ChemStation 管理ツールの **【セキュアファイル IO を有効】** チェックボックスをオンにします。

既存の機器コンフィグレーションは、アップグレードの後も変更せずに残すことができます。

注記

クラシックドライバーは ChemStation C.01.08 以降ではサポートされていません。詳細は、「[クラシック機器ドライバーの RC.NET への更新](#)」73 ページを参照してください。

9

ソフトウェアのアンインストール

アンインストールについて 84

OpenLab CDS アンインストールウィザードの実行 85

この章では、OpenLab のアンインストールウィザードを使用したアンインストールについての情報が書かれています。

アンインストールについて

注記

OpenLab CDS ChemStation Edition をアンインストールする際には、Windows のアンインストールツールを使わないでください。

インストールと同様、アンインストールも OpenLab CDS ChemStation Edition インストーラから自動的に実行できます。

注記

インストーラを使ってインストールせずに、手動でインストールしたヘッドスペース、PAL、サードパーティドライバなどの追加ソフトウェアをコアソフトウェアをアンインストールする前に、Windows コントロールパネルから、アンインストールする必要があります。

インストーラは、同じユーザーインターフェイスを使用してすべてのコンフィグレーションのソフトウェアのアンインストールができる仕様になっています（スタンドアロンまたはネットワークワークステーション）。

【OpenLab のアンインストール】 は、インストーラの **【メンテナンス】** セクションにあります。アンインストールの手順が表示されます。

OpenLab CDS アンインストールウィザードの実行

- 1 **【スタート】** > **【すべてのプログラム】** > **【Agilent Technologies】** > **【OpenLab CDS のアンインストール】** の順に選択します。
【OpenLab アンインストールウィザード】 が開きます。
- 2 **【共有コンポーネント】** 画面で、**【ソフトウェアベリフィケーションのアンインストール】** および **【PostgreSQL のアンインストール】** チェックボックスをオンにします。
注記：OpenLab CDS ChemStation Edition を後に再インストールする場合には、Software Verification Tool をアンインストールする必要があります。
- 3 **【OpenLab CDS ChemStation コンポーネントのアンインストール】** の **【サマリ】** 画面には、アンインストールするコンポーネントのリストが表示されます。
- 4 **【開始】** を選択してアンインストールを開始します。
アンインストールを中止する場合は、**【キャンセル】** を選択します。設定を変更する場合は、**【戻る】** を選択します。
リストされているコンポーネントがすべて、順々に自動的にアンインストールされます。
- 5 アンインストールが完了したら、**【完了】** をクリックし、アンインストールウィザードを閉じます。

10

トラブルシューティング

ChemStation C.01.08 以降へのアップグレード後にクラシックドライバーを使用した機器の再コンフィグレーション 87

この章では、トラブルシューティングのヒントをいくつか提供しています。

トラブルシューティング

ChemStation C.01.08 以降へのアップグレード後にクラシックドライバーを使用した機器の再コンフィグレーション

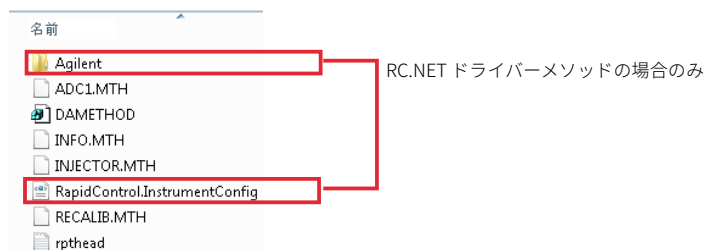
ChemStation C.01.08 以降へのアップグレード後に クラシックドライバーを使用した機器の 再コンフィグレーション

『OpenLab CDS ChemStation Edition アップグレードガイド』

(CDS_CS-Upgrade.pdf) で説明するドライバーの準備から推奨事項に従わなかった場合、ChemStation は起動しますが、クラシックドライバーを使用した機器は使用できなくなります。お使いの機器を再コンフィグレーションする必要があるという通知を受けます。

クラシックドライバーの機器とメソッドは、自動的に RC.NET に更新されません。以下の手順を実行して、設定を更新してください。

クラシックメソッドが使用されているかどうか確認するには、Windows エクスプローラーへ移動し、対応するメソッドフォルダーのコンテンツを表示します。クラシックメソッドには、Agilent フォルダはありません。



- 1 各クラシックドライバー機器の IP アドレスを記録してください。
- 2 メソッドとデータのバックアップが他のロケーションに保存されていることを確認してください。
- 3 機器を再コンフィグレーションするには、**[OpenLab Control Panel]** 内の機器を選択してください。
- 4 リボンの **[機器コンフィグレーション]** をクリックします。
メッセージが表示され、お使いの機器を再コンフィグレーションするように求められます。
- 5 **[OK]** をクリックします。

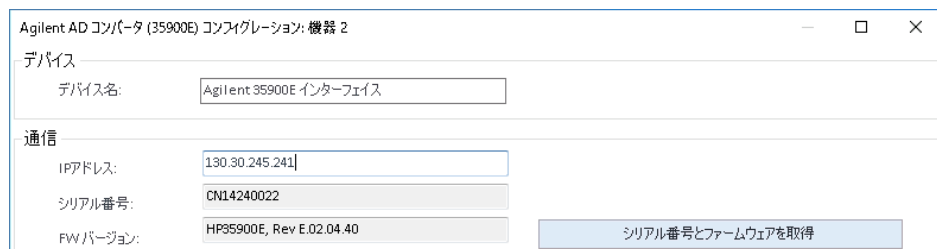
トラブルシューティング

ChemStation C.01.08 以降へのアップグレード後にクラシックドライバーを使用した機器の再コンフィグレーション

【機器コンフィグレーション】 パネルが開きます。**【クラシックドライバを使用】** チェックボックスは表示されなくなります。



- 6 機器を更新して RC.net ドライバーを使用するには、**【コンフィグレーション可能なモジュール】** パネルで機器を選択し、矢印をクリックして**【選択したモジュール】** パネルに追加します。
- 7 IP アドレスを入力します。35900E A/D 機器の場合：**【シリアル番号とファームウェアを取得】** をクリックして、対応するエントリを取得してください。以下の例のように、35900EA/D 機器に正常に接続されると、シリアル番号とファームウェアバージョンが更新されます。



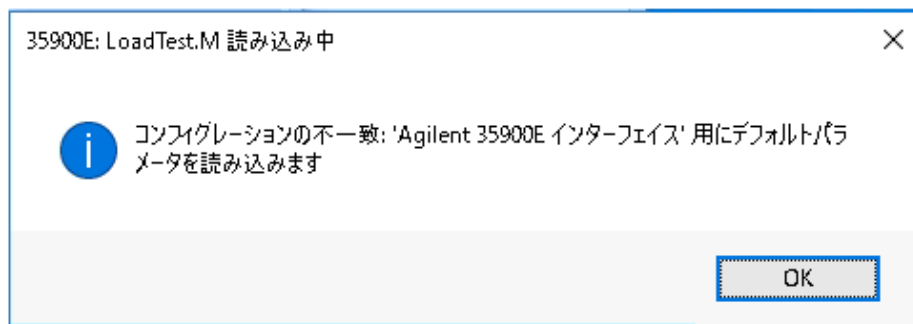
これで、機器の設定が完了します。

- 8 **【OK】** をクリックして機器コンフィグレーションを読み込みます。
- 9 **【スタートアップ時の読み込みメソッド】** オプションを指定し、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - a **選択するオプションをユーザーに確認する**
 - b **【機器にメソッドをダウンロード】** (スタートアップ時のオプションを選択して、クラシックドライバーの挙動に合わせてください。)
 - c **機器からメソッドをアップロード**
 - d **機器から新規メソッド作成**
- 10 **【OK】** をクリックして完了します。
- 11 新たにコンフィグレーションした機器を起動します。

トラブルシューティング

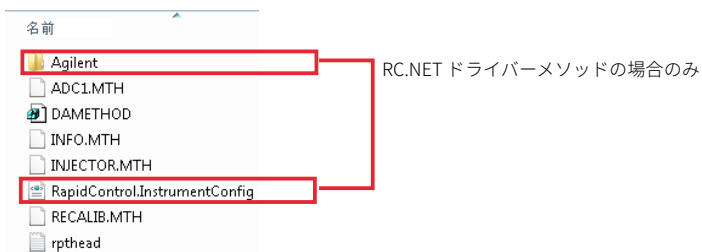
ChemStation C.01.08 以降へのアップグレード後にクラシックドライバーを使用した機器の再コンフィグレーション

- 12 メソッドを RC.NET ドライバーに変換するには、メソッドを読み込んでください。以下のようなダイアログが開いたら、**[OK]** をクリックします。



メソッドをレビューし、更新が必要なければ、メソッドを保存するときに「RC.NET へ更新済み」などのコメントを追加します。

メソッドは読み込まれるときに RC.NET に変換されます。変換されたメソッドはディスクへ保存された後、Agilent フォルダと RapidControl.InstrumentConfig ファイルが追加されます。



11

付録

PC 名の変更 91

営業およびサポートのお問い合わせ先 92

PC 名の変更

ネットワーク内での重複した名前を避けるためや、ポリシーの変更によって PC 名を変更する場合があります。内部では、ソフトウェアコンポーネントはワークステーションの localhost を使用するため、ソフトウェアの実行を継続するための追加の操作は必要ありません。ただし、インストール後に PC 名を変更する必要がある場合は、その PC に対するライセンスファイルは無効になります。

機器は、指定したコンフィグレーション用に作成されたファイルをインストールすることでライセンス供与されます。ライセンスファイルのテキストには、**コンピューター名**とネットワークカードの**ハードウェアアドレス**が記載されています。このいずれかのパラメータを変更すると、ライセンスは適用されなくなります。

新しい PC 名（ホスト名）でライセンスファイルを作成しインストールする必要があります。

ライセンス

以下のライセンスファイルがインストールされています。ライセンスファイルを追加するには、[ライセンスの追加] をクリックしてください。ライセンスの詳細を表示するには、[ライセンスの表示] をクリックしてください。ライセンスファイルを削除するには、ライセンスファイルを選択し、[ライセンスの削除] をクリックしてください。スタートアップライセンスに戻すには、すべてのインストールされているライセンスファイルを削除してください。

ファイル

ファイル名	ホスト	MAC アドレス	ステータス
ANY_20161231.lic	this_host	f0921cdcee17	無効

営業およびサポートのお問い合わせ先

営業およびサポートのお問い合わせ先については、以下のウェブサイトを確認してください。

<http://www.chem-agilent.com/contents.php?id=1001827>

本書の内容

本インストールガイドでは、Agilent Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition のインストールおよび設定について説明しています。

www.agilent.com

© Agilent Technologies 2014-2019

Published in Germany
04/2019



M8313-96004 リビジョン C

